

## Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

### 【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階評価である。本報告書においては、データの理解のしやすさや分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4～1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離(つまり1の間隔)だという保証はどこにもないからである。しかし4つのカテゴリーごとの相対度数(パーセント)を見て、そこから何らかの傾向を把握することは必ずしも容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察するための目安の1つとして用いていくことにしたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でしかその傾向をつかみにくいという性格を持っている。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を同時に提示した。これによって、その評価項目に対して肯定的な評価をしている対象者がどれくらいの割合で存在するかを推測する目安となろう。

さらに回答者の属性ごとの回答者数を提示しておく。本来なら、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、データの構造上、全てのデータに回答者数を掲載すると非常に煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした(次頁表2-1)。以下、本章においては、常に次頁の回答者数を念頭においてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層は誤差も大きく出る可能性があるため、注意が必要である。たとえば、学部では年齢階層別の「19歳以下」、職業別の「農業等」「他大学等の学生」、大学院では年齢階層別の「20～29歳」、同じく職業別の「農業等」「他大学等の学生」である。

表 2 - 1 回答者数一覧

【学部】				【大学院】			
全体	5132	(単位:人)		全体	1921	(単位:人)	
メディア		年齢階層		メディア		年齢階層	
テレビ科目(TV)	3,059	19歳以下	22	テレビ科目(TV)	930	19歳以下	0
ラジオ科目(R)	2,073	20～29歳	587	ラジオ科目(R)	991	20～29歳	69
職業		30～39歳	1,053	職業		30～39歳	367
公務員等	463	40～49歳	1,062	公務員等	295	40～49歳	531
教員	273	50～59歳	1,069	教員	430	50～59歳	480
会社員	877	60～69歳	843	会社員	349	60～69歳	306
個人営業・自営業	301	70歳以上	400	個人営業・自営業	126	70歳以上	125
農業等	41	専攻		農業等	5	専攻	
看護師等	480	生活と福祉	649	看護師等	78	総合文化(文化情報科学群)	442
家事専業	537	発達と教育	1,046	家事専業	95	総合文化(環境システム科学群)	344
パート・アルバイト	588	社会と経済	448	パート・アルバイト	100		
他大学等の学生	50	産業と技術	677	他大学等の学生	2	政策経営	487
無職	1,006	人間の探究	1,786	無職	234	教育開発	476
その他	383	自然の理解	526	その他	159	臨床心理	172

※職業及び年齢には無回答があるため、職業及び年齢階層の回答者数をそれぞれ合計しても、全体の回答者数とは一致しない。

## Ⅱ - 1. 学部票結果の分析

### Ⅱ - 1 - 1. 回答者全体から見た分析

学部の回答者全体について、評価項目ごとの結果を示したものが次頁の図 2 - 1 である。

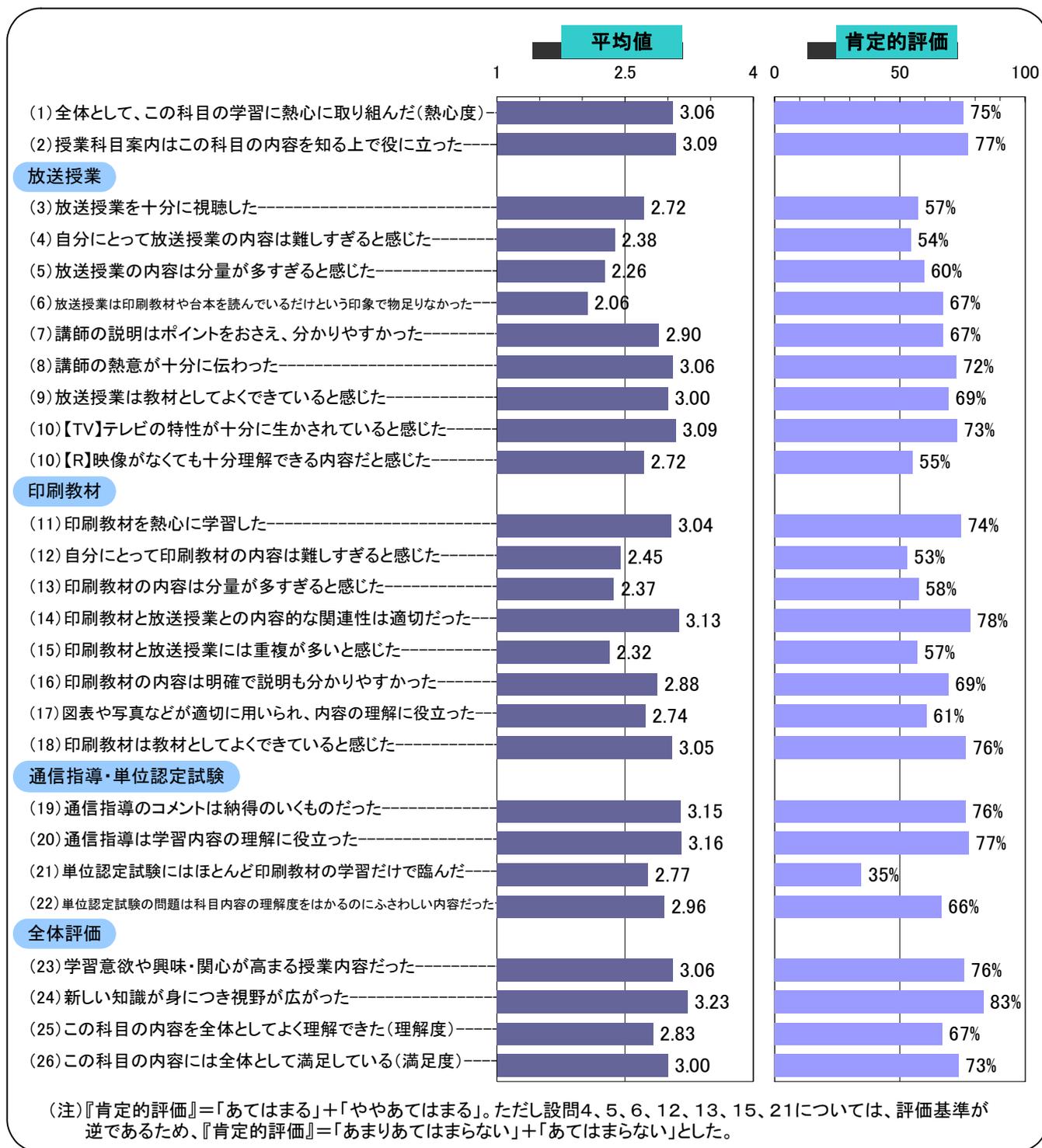
まず全体評価を見ると、対象科目の総合的な満足度を示しているであろう (26) 「この科目の内容には全体として満足している (満足度)」は、平均値 3.00 と比較的高い値となっている。肯定的評価 (満足とした学生の割合) も 73% と全体の 3/4 を占める。ただ残りの 1/4 は対象科目に対して満足しておらず、今後はこうした不満層への対策を練る必要がある。

同様に、(25) 「この科目の内容を全体としてよく理解できた (理解度)」も、平均値 2.83 とやや高めになっているが、肯定的評価 (よく理解できた学生の割合) は 67% にとどまっている。1/3 の学生が十分に理解していない状況を考えると、満足度評価を高める上で、まず理解度の向上が優先課題としてあげられる。

また、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、最も評価値の高い項目となっているが、教育機関としての大学の性格を考えれば、当然の結果とも言えよう。

なお、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は、肯定的評価(熱心に取り組んだという学生)が75%となっている。熱心に取り組むかどうかは、単に学生側の学習意欲の問題だけでなく、授業内容や難易度感等も影響してくるものと思われるが、熱心度と授業内容や難易度感との関連も今後明らかにすべき課題と言えよう。

図 2 - 1 【学部】 回答者全体の評価



次に放送授業に関しては、放送授業の総合評価とも言える(9)「教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.00、肯定的評価 69%とまずまずの評価と言える。

(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「テレビの特性が十分に生かされていると感じた」等の評価値が比較的高く、それに(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」という学生はやや少なく、講師の授業方法やテレビ特性の活用については比較的高い評価を得ていると言える。ただラジオ科目の(10)「映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、平均値 2.72 とやや評価値が低く、肯定的評価も 55%にすぎない。ラジオの場合、映像を伴わないという制約はあるが、それを補う授業方法や印刷教材、科目の選定等について、さらなる工夫が必要と言える。

一方、放送授業の内容については(4)「難しすぎると感じた」、(5)「分量が多すぎると感じた」という学生が半数弱を占めている(「そう思わない」という肯定的評価はそれぞれ 54%、60%)。これを多いと見るか、少ないと見るかは、大学が提供する教育レベルとも関係するので簡単に断言することはできないが、今後、議論すべき調査結果と言えよう。

(3)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.72、肯定的評価 57%とやや低くなっている。単純には比較できないが、(11)「印刷教材を熱心に学習した」と比べるとかなり低い数字となっており、学習の中心が放送授業よりも印刷教材に重点が置かれている傾向がうかがえる。学生の中心が社会人であることを考慮すると、学生側の時間的制約からそうならざるを得ない事情も考えられるが、放送内容が印刷教材の単なる繰り返しになっていないか等、放送内容に起因する原因がないかも十分に吟味する必要がある。この点は通常の通信制大学とは異なる放送大学の意義が問われる部分でもある。

印刷教材については、総合評価とも言える(18)「教材としてよくできていると感じた」は平均値 3.05、肯定的評価 76%と比較的高い評価値を得ている。印刷教材の内容については、(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」、(16)「内容は明確で説明も分かりやすかった」等の点で、比較的高い評価値を得ており、理解のしやすさという点では一定の評価を得ていると言える。

一方、印刷教材の内容が(12)「難しすぎると感じた」、(13)「分量が多すぎると感じた」という学生は、放送授業の内容と同様に半数弱を占めている(「そう思わない」という肯定的評価はそれぞれ 53%、58%)。

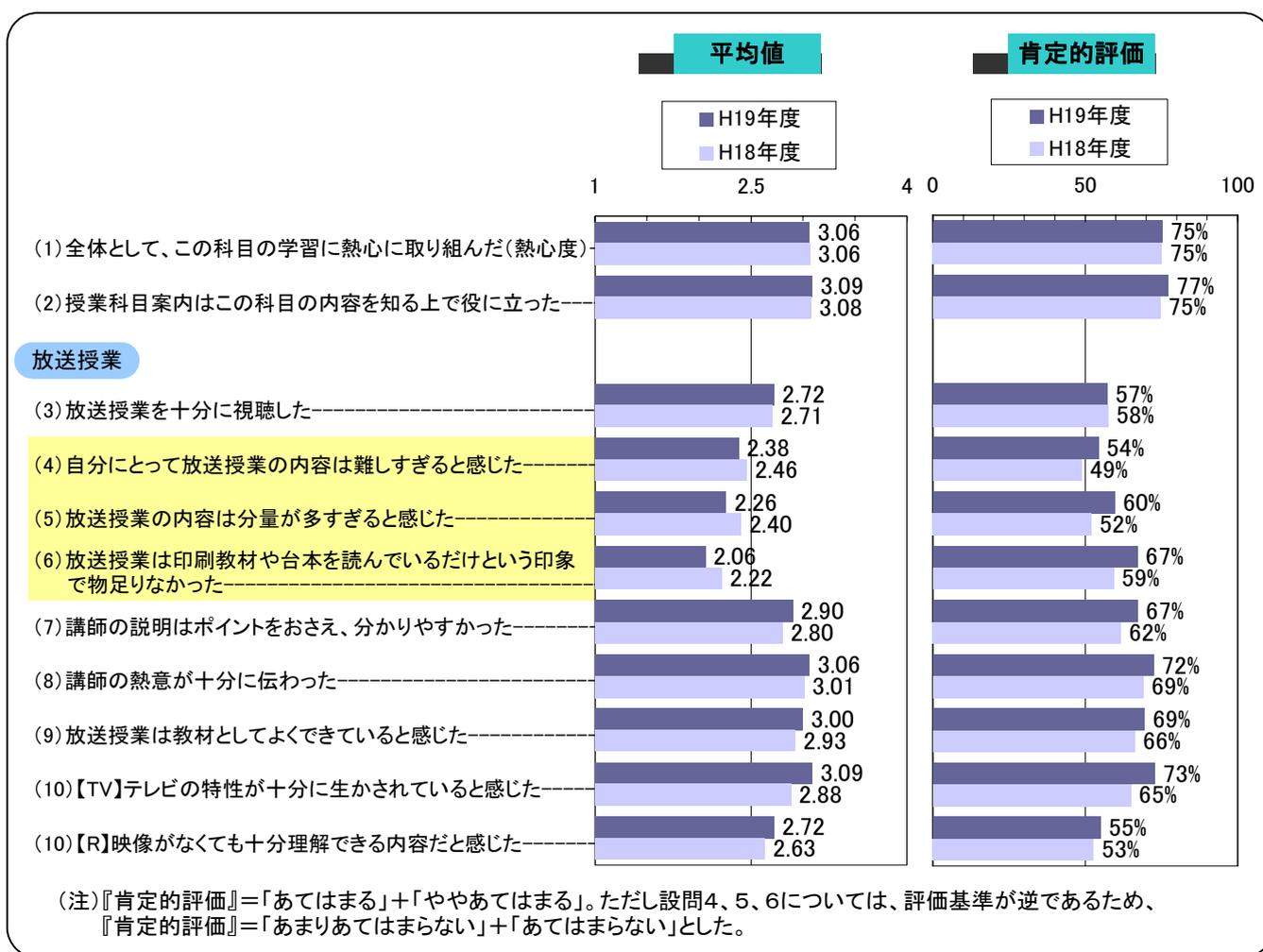
また(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」という学生も半数弱を占めており(「そう思わない」という肯定的評価は 57%)、今後改善すべき課題と言えよう。

通信指導の(19)「コメントは納得のいくものだった」、(20)「学習内容の理解に役立った」については、いずれも高い評価値を得ており、単位認定試験の(22)「科目内容の理

解度をはかるのにふさわしい内容だった」もやや高い評価値を得ている。

ここで回答者全体の評価を、昨年度との比較で見える（図2-2及び図2-3）。前述したように、昨年度とは調査対象科目が異なり、厳密な意味での時系列比較にはならないため、参考程度にとどめておく必要がある。

図2-2 【学部】回答者全体の評価（時系列）



まず放送授業に関しては、昨年度よりも評価値が高くなっている項目が多い。特に(5)「放送授業の内容は分量が多すぎと感じた」、(6)「印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、テレビ科目の(10)「テレビの特性が十分に生かされていると感じた」、ラジオ科目の(10)「映像がなくても十分に理解できる内容だと感じた」等、放送授業の内容、講師の授業方法、メディア特性の活用において評価の向上が見られる。

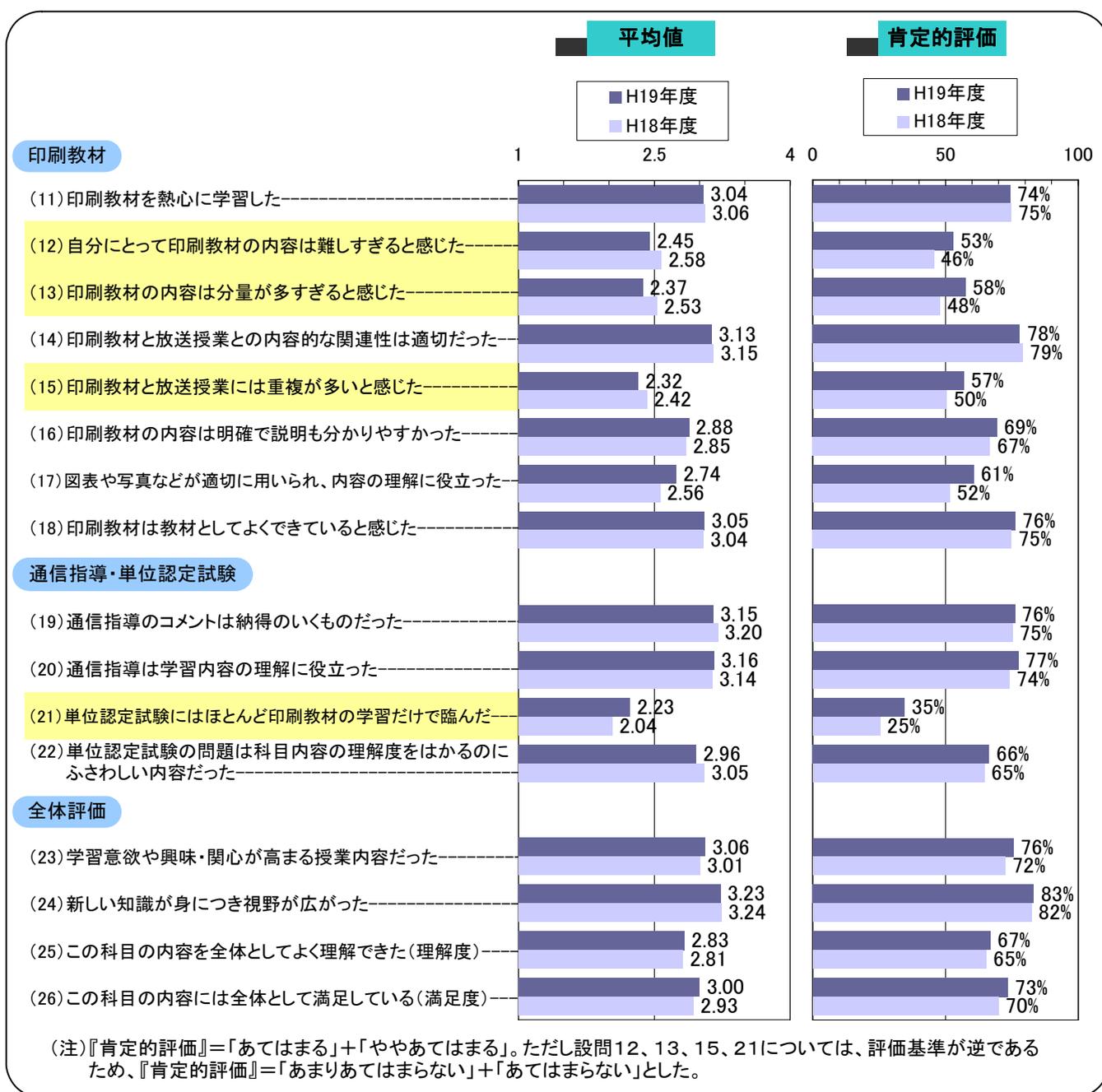
印刷教材についても、昨年度よりも評価値が高くなっている項目が多く、(12)「内容が難しく感じた」、(13)「分量が多すぎと感じた」、(15)「印刷教材と放送授業に重複が多いと感じた」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」等の

評価値が特に高くなっている。

全体評価の(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」や(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、昨年度よりわずかながら高まっているが、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、昨年度とほぼ同じ評価値となっている。

全般的に見れば、今回対象とした授業は、昨年度に対象とした授業よりも評価が高くなっていると言えよう。

図 2 - 3 【学部】回答者全体の評価（時系列）



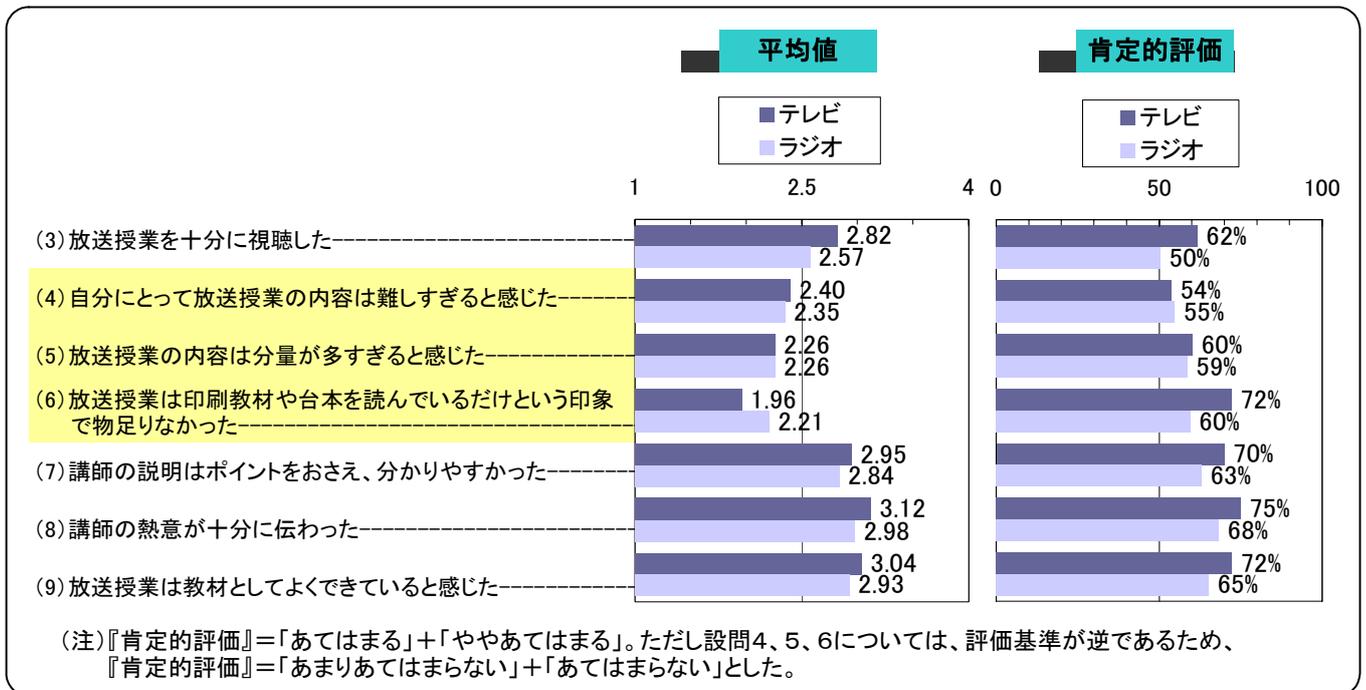
## Ⅱ-1-2. 科目特性別及び回答者の属性別の評価

### (1) 放送授業に関する評価結果

ここからは、各評価項目に関して、メディア（テレビ科目またはラジオ科目）、所属専攻、回答者の年齢構成・職業等の属性別に見ていくことにする。

まず、放送授業に関する評価結果をメディア別に見ると（図2-4）、(3)「放送授業を十分に視聴した」では、テレビ科目に比べラジオ科目の視聴が十分でないことが分かる。「十分に視聴した」かどうかの評価は、時間的な問題に加え、十分に理解できたかどうかという要素とも関連していると思われるので、授業の理解のしやすさや科目の難易度も考慮して総合的に判断する必要がある。だがいずれにしろ、ラジオ科目はテレビ科目に比べ視聴が不十分になりがちであることを念頭において、授業改善を図っていく必要があるだろう。

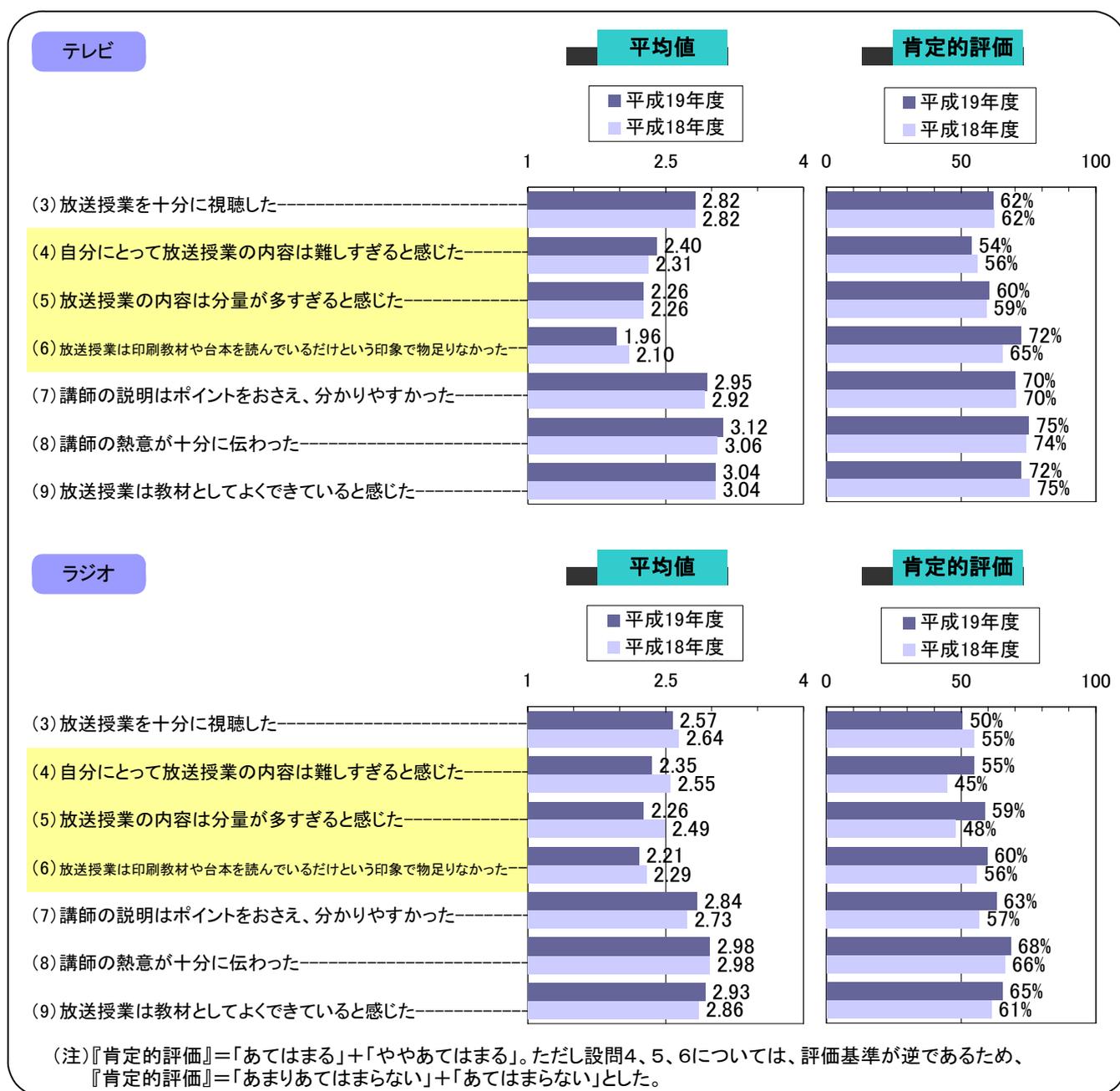
図2-4 【学部】メディア別の「放送授業」評価



また放送授業の内容〔(4)「難しすぎと感じた」、(5)「分量が多すぎと感じた」〕に関しては、テレビ科目とラジオ科目であまり大きな差は見られないが、講師の授業方法〔(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」等〕に関しては、テレビ科目の方が、評価が高くなっている。放送授業の総合評価と言える(9)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」もテレビ科目の方が高い評価値となっている。つまり、テレビ科目とラジオ科目では難易度や分量等の内容的な評価に差はないものの、講師の授業方法〔(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分

かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」等]において評価差が見られ、それが総合的な評価にも影響を与えていると考えられる(総合評価と個別評価の関係については41頁、表2-2の相関分析も参照にされたい)。こうした点から見ても、前述のようにラジオ科目については今後工夫の余地があろう。

図2-5 【学部】メディア別の「放送授業」評価(時系列)



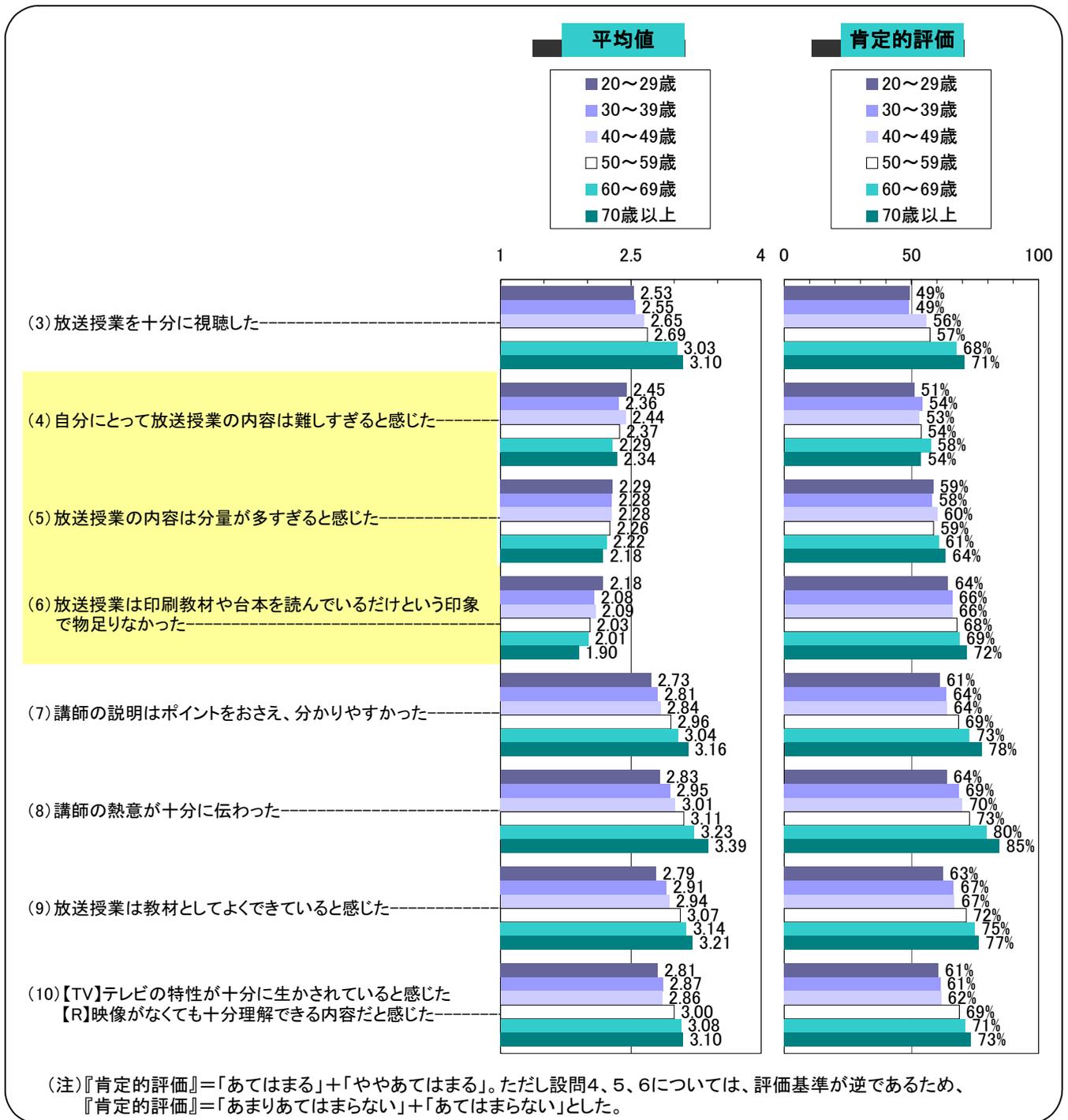
さらにメディア別に昨年度調査との比較を見ていく(上図2-5)。まずテレビ科目では(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」という学生は、昨年度より減少している、(4)「放送授業の内容は難しすぎと感じた」と

いう学生は増加している。それ以外の項目に関してはあまり変化がなく、総合評価としての(9)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」も昨年とほぼ同じ評価値となっている。

ラジオ科目は、(3)「放送授業を十分に視聴した」という学生は減っているものの、(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」、(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」、(6)「印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」という学生は減少している。また、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」という点でも評価値が上がっており、総合的な教材の出来栄である(9)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」もわずかではあるが評価値が上がっている。なお、テレビ科目・ラジオ科目とも(6)「印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」と回答した学生は減少しており、前回までの調査で指摘されていた棒読み感は改善されつつあると言える。

次に放送授業に関して、学部生の年齢階層別に見ていくと(次頁図2-6)、(3)「放送授業を十分に視聴した」は、定年退職者が多い60歳以上で特に多くなっている。これは、主に時間的な余裕の有無が影響しているものと思われる。また(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」、(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」等の授業内容に関しては年齢階層の差があまり見られないのに対し、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」等の講師の授業方法、(10)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、及び総合的な評価である(9)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」に関しては、年齢の高い層ほど評価値が高くなっている。もともと明確な基準のない評価に関しては、高齢者ほど肯定的な回答をする傾向が見られるものであるが、これらの評価に関してもその影響が出ている可能性がある。また高齢者層ほど学習意欲が高いことも原因として考えられる。

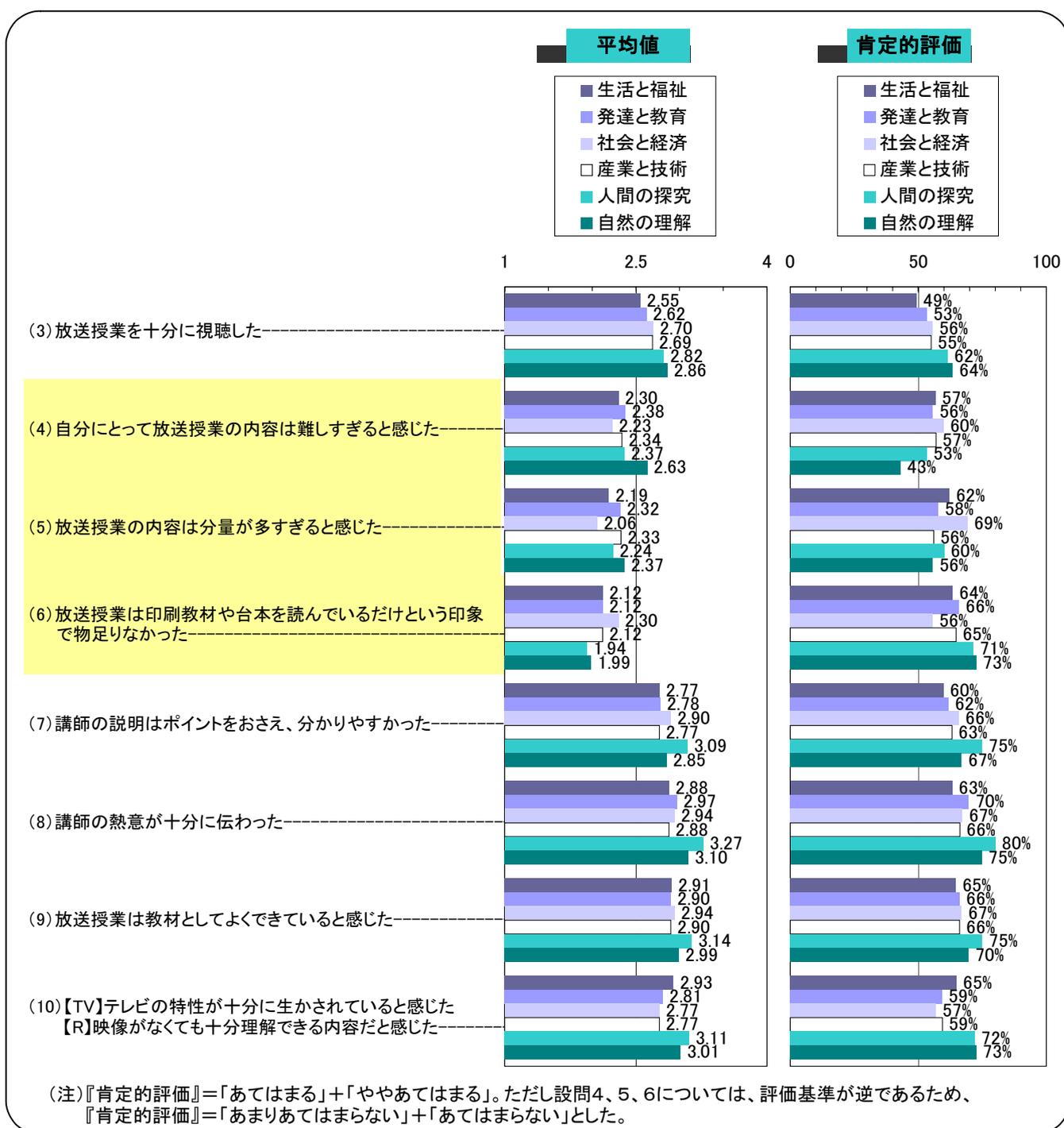
図 2 - 6 【学部】年齢階層別の「放送授業」評価



科目の所属専攻別に見ると（図2-7）、(3)「放送授業を十分に視聴した」という学生は、「自然の理解」及び「人間の探究」が多い。

(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」は「自然の理解」が他の専攻に比べかなり多くなっており、(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」は、「自然の理解」「産業と技術」「発達と教育」等でやや多くなっている。なお、放送授業の内容について(4)「難しすぎると感じた」、及び(5)「分量が多すぎると感じた」という学生が最も少ないのは「社会と経済」である。

図2-7 【学部】科目の所属専攻別の「放送授業」評価



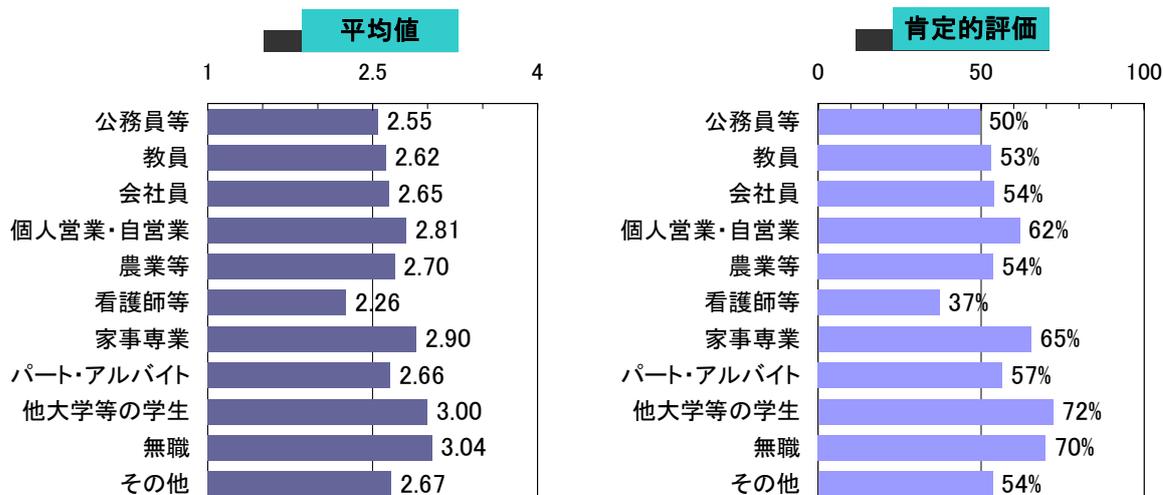
また、(6)「印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」という学生が最も少ないのは「人間の探究」である。(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」等の講師の授業方法、(10)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、及び総合的な評価である(9)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」についても、「人間の探究」の評価値が最も高く、次いで「自然の理解」が高くなっている。

次いで、学部生の職業別に視聴の十分さ及び難易度・分量について見てみる(次頁の図2-8)。(3)「放送授業を十分に視聴した」という学生は、やはり家事専業、無職、個人営業・自営業等比較的時間に余裕があると思われる層で多くなっている。逆に十分視聴されていないのは看護師等であり、他の職種に比べかなり低くなっている。職業による特性である可能性が高いが、この点については受講動機等ともあわせて分析する必要があるだろう。

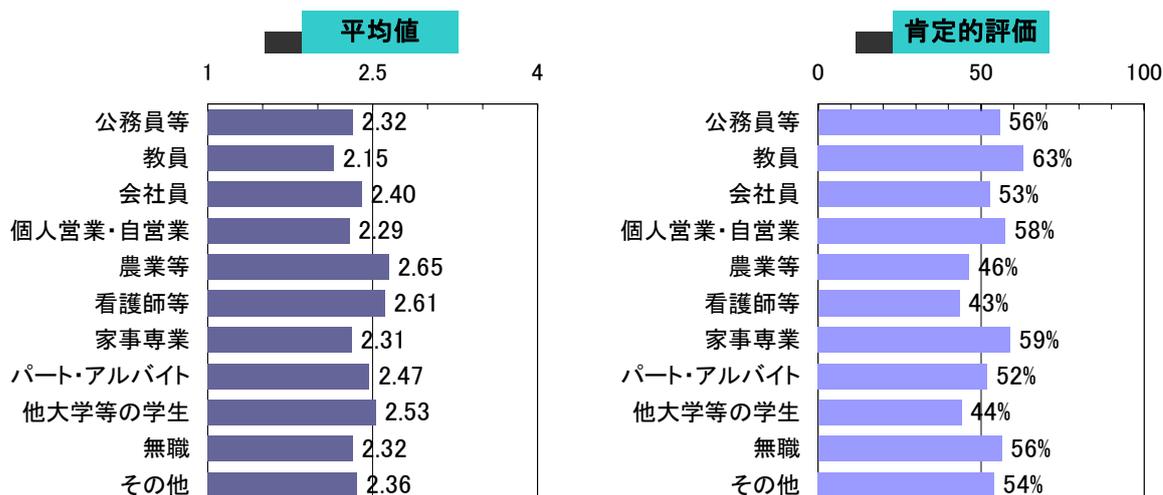
(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」、(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」という学生は、やはり十分視聴されていない看護師等で多くなっている(農業等と他大学等の学生も「難しすぎる」「分量が多すぎる」と感じている学生が多いが、この2つの職種については回答者数が少ないため参考にとどめるべきであろう)。さらに、(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」という学生が相対的に少ないのは、教員及び視聴を十分したという家事専業、無職、個人営業・自営業である。

図 2 - 8 【学部】職業別の「放送授業」評価

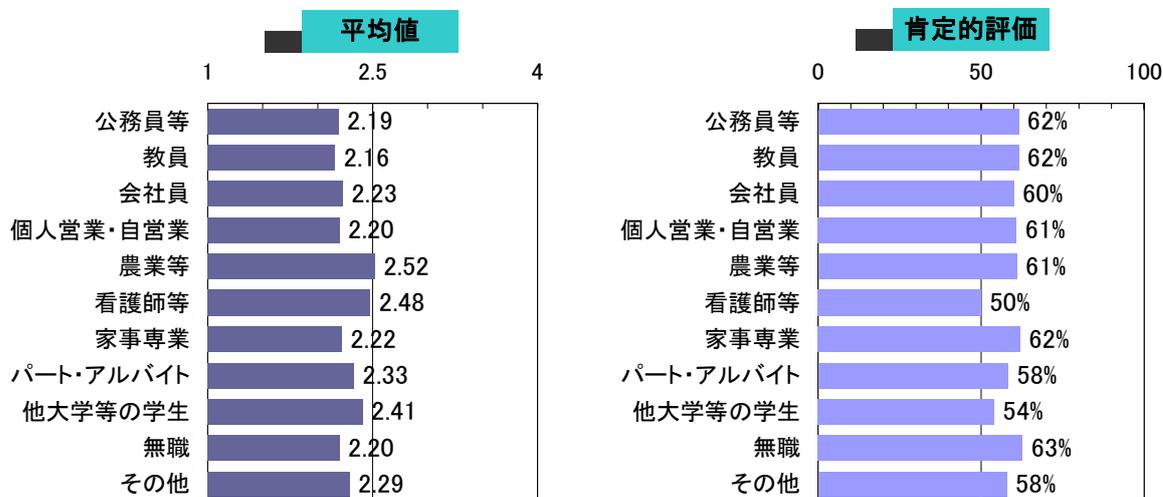
(3) 放送授業を十分に視聴した



(4) 自分にとって放送授業の内容は難しすぎると感じた



(5) 放送授業の内容は分量が多すぎると感じた



(注)『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。ただし設問4、5については、評価基準が逆であるため、『肯定的評価』=「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」とした。

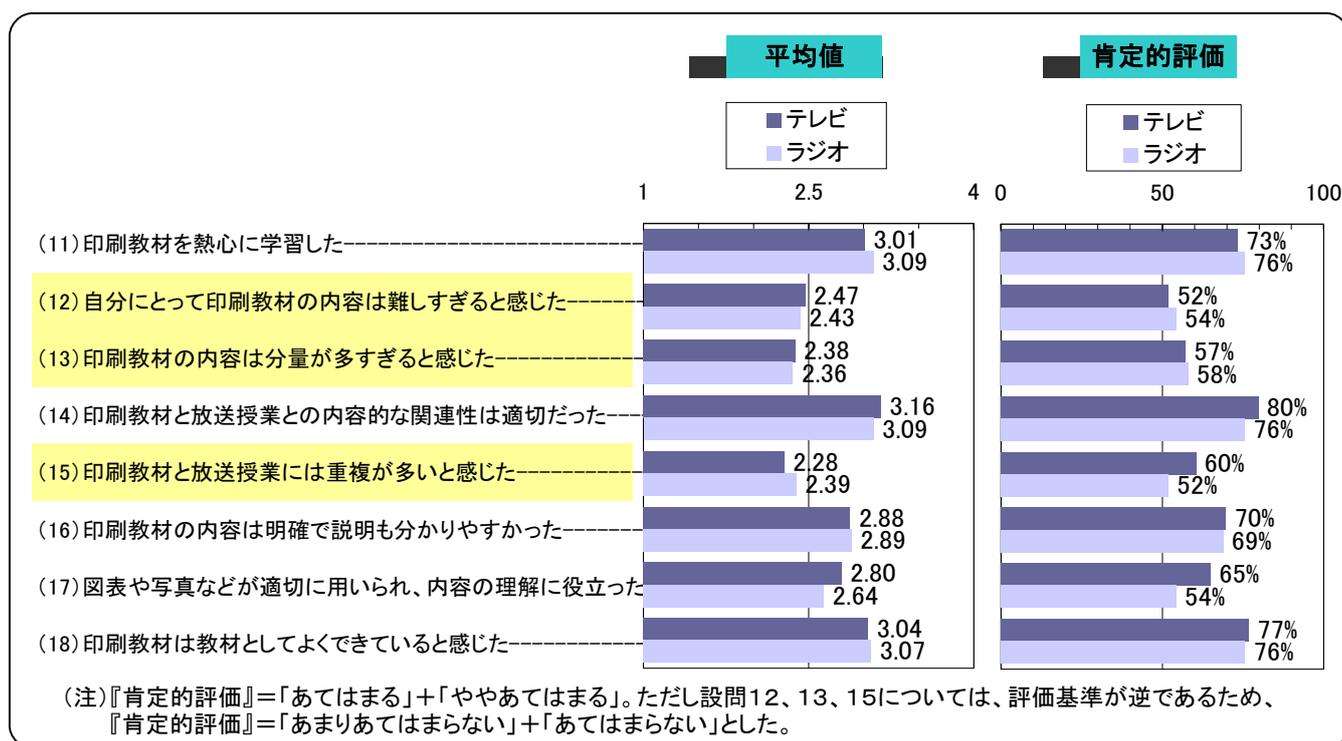
## (2) 印刷教材に関する評価結果

ここからは印刷教材に関する評価結果について見ていく。メディア別の印刷教材の評価が図2-9である。

まず(11)「印刷教材を熱心に学習した」は、テレビ科目よりもラジオ科目の方が若干多くなっており、昨年度とは逆転した結果になっている(昨年度はテレビ科目の方が熱心に学習した学生が多い)。ラジオ科目の方が多い原因として、第1に今回のテレビ科目では、昨年度よりも「熱心に視聴した」という学生が減少していること、第2に今回のラジオ科目は(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」という学生が減っており、難しすぎたり、分量が多すぎて学習をあきらめる学生が少なかったと思われること、第3に(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」等の印刷教材としての評価が、昨年度に比べテレビ科目は低下し、ラジオ科目では逆に向上している点等があげられる(次頁の時系列グラフ参照)。

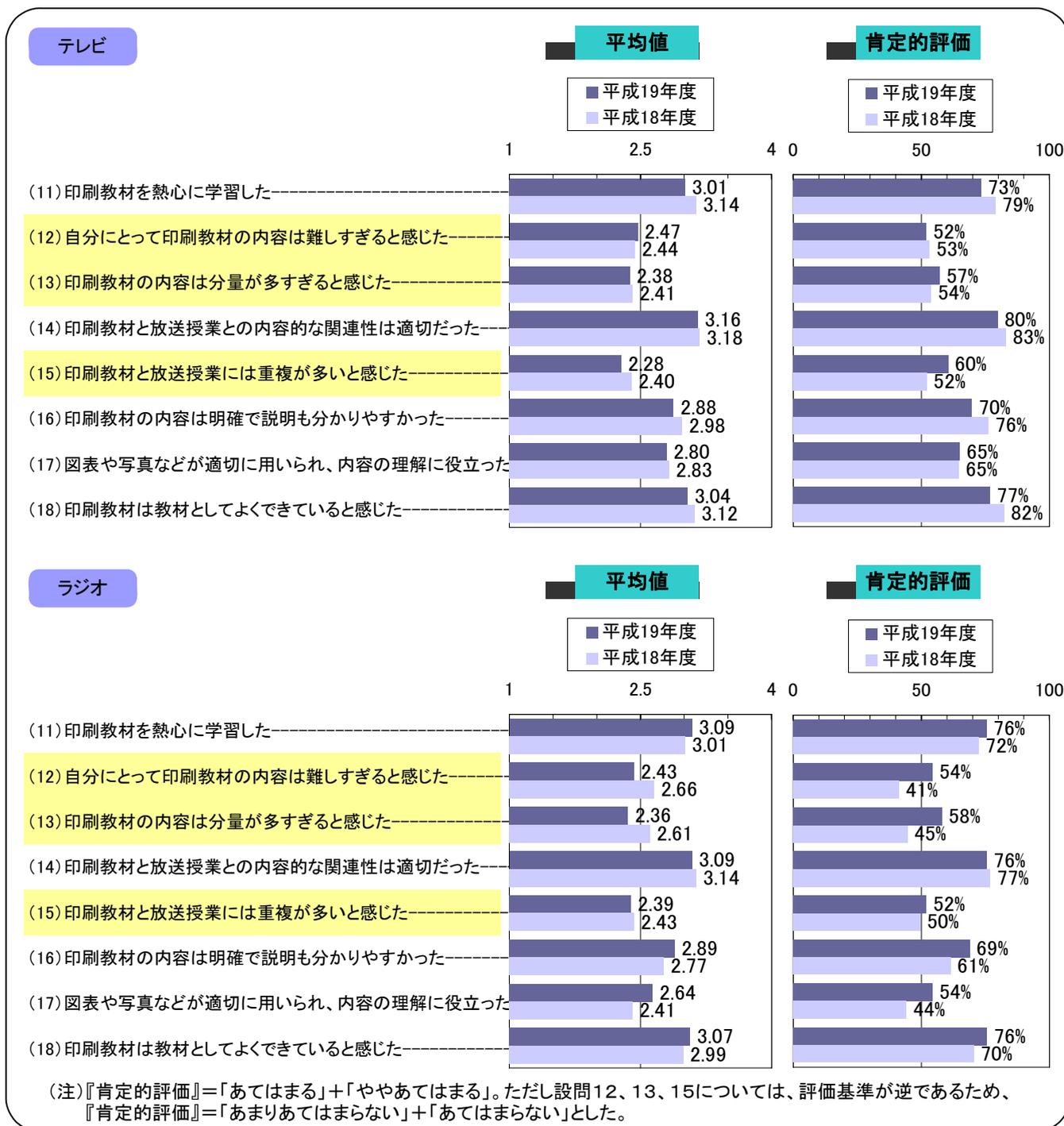
また(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」、(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、及び総合評価としての(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、テレビ科目とラジオ科目でそれほど大きな差は見られない。一方、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」という学生はラジオ科目の方が多く、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」もラジオ科目の評価が低く、ラジオ科目の印刷教材の改善すべき課題と言えよう。

図2-9 【学部】メディア別の「印刷教材」評価



メディア別の印刷教材の評価を昨年度の結果と比較すると（図2-10）、前述したようにテレビ科目は、(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生が減少し、総合評価の(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」も評価値が低くなっている。具体的な内容については、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」は昨年度より評価値が高まっているものの、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は評価値が低くなっている。

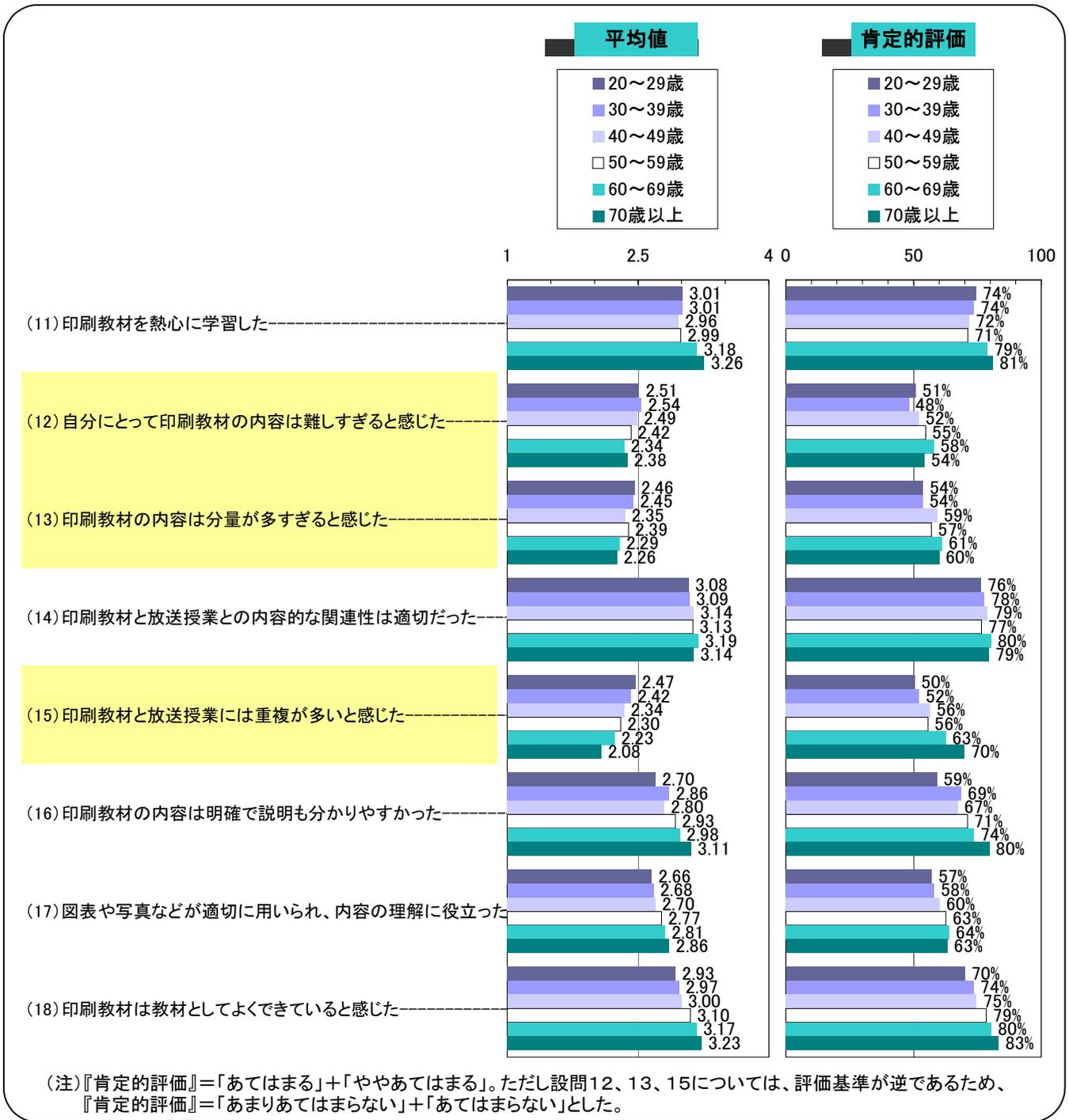
図2-10 【学部】メディア別の「印刷教材」評価（時系列）



ラジオ科目については、テレビ科目とは逆に(11)「印刷教材を熱心に学習した」という学生が増加し、総合評価の(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」も評価値が高くなっている。さらに(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」という学生は減少し、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」等の具体的な内容についても昨年度よりも評価が高まっている。

次に印刷教材に関して、学部生の年齢階層別に見ていくと(次頁図2-11)、放送授業と同様に、(11)「印刷教材を熱心に学習した」は、60代以上の高齢者層で多くなっている。その他の項目については、(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」を除いて、年齢の高い階層ほど評価値が高くなっている。特に(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、そして総合評価としての(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」等は年齢階層による評価差が大きい。これも学習に対する熱心さや、心理的項目に対する高齢者の肯定的回答傾向等の要因が推測される。

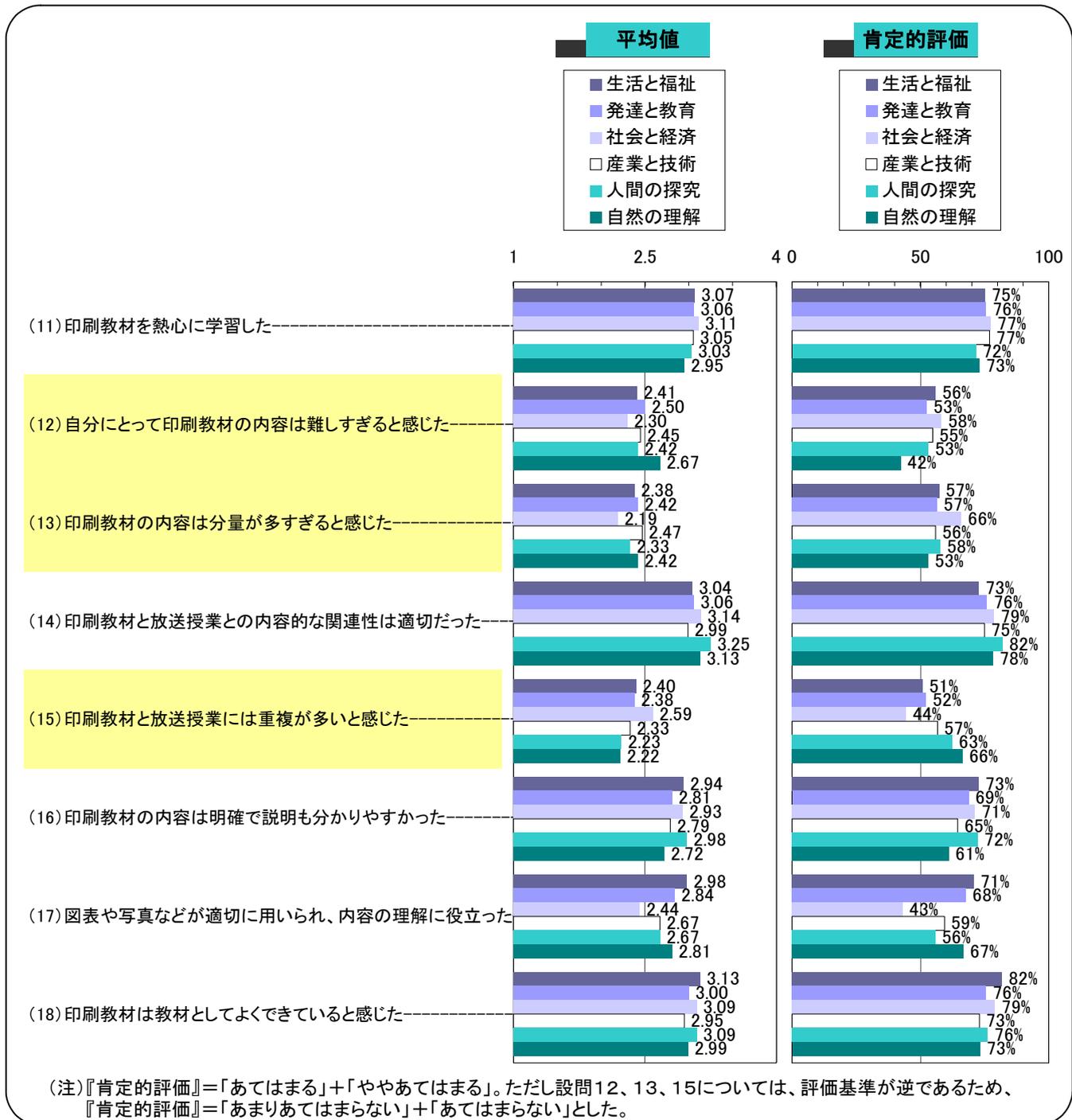
図 2 - 1 1 【学部】年齢階層別の「印刷教材」評価



科目の所属専攻別に印刷教材の評価を見ると（次頁図 2 - 1 2）、「社会と経済」は、(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」と答えた学生が他の専攻より少なく評価が高いが、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」の評価値が低くなって

いる。難易度・分量は他の専攻に比べ適切であるものの、印刷教材の表現方法に課題が見られる。「自然の理解」は、(12)「印刷教材の内容は難しすぎと感じた」という学生が多いうえ、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」の評価値も低く、印刷教材の難易度感が高い科目が多くなっている。なお、総合評価としての(18)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」の評価値が高い専攻は、「生活と福祉」「社会と経済」等である。

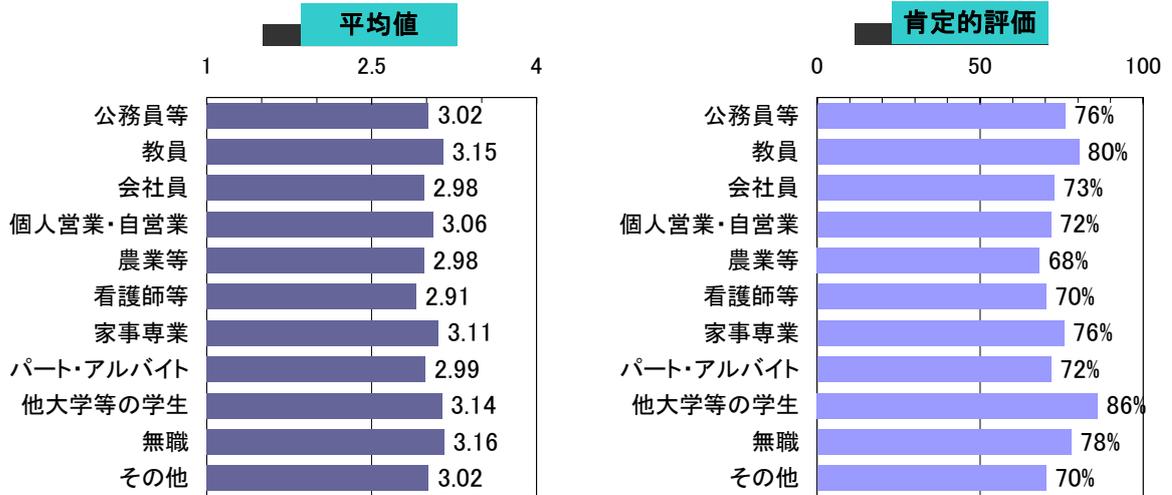
図 2 - 1 2 【学部】所属専攻別の「印刷教材」評価



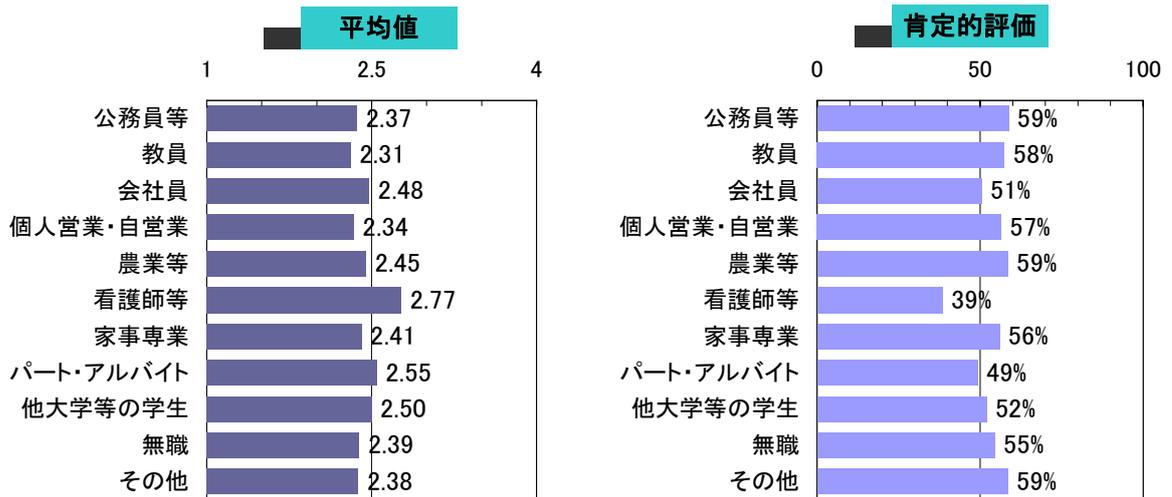
職業別に学習熱心度及び難易度・分量について見てみる（次頁の図2-13）。（11）「印刷教材を熱心に学習した」は、教員、他大学等の学生、及び家事専業、無職が多い。また（12）「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、（13）「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」は、放送授業と同様、看護師等が特に多くなっているが、受講科目との関連性も吟味する必要がある。

図 2 - 1 3 【学部】職業別の「印刷教材」評価

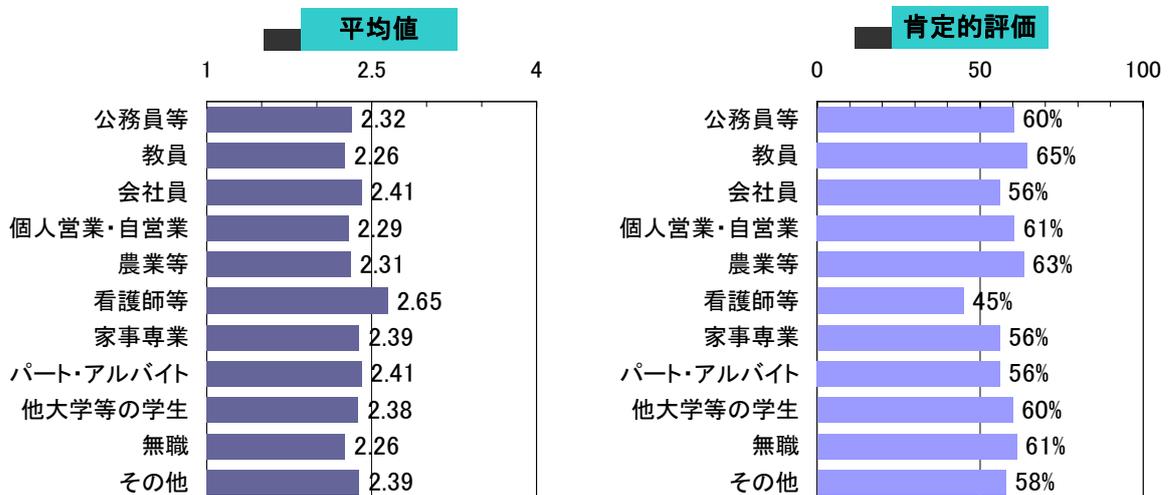
(11)印刷教材を熱心に学習した



(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎと感じた



(13)印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた



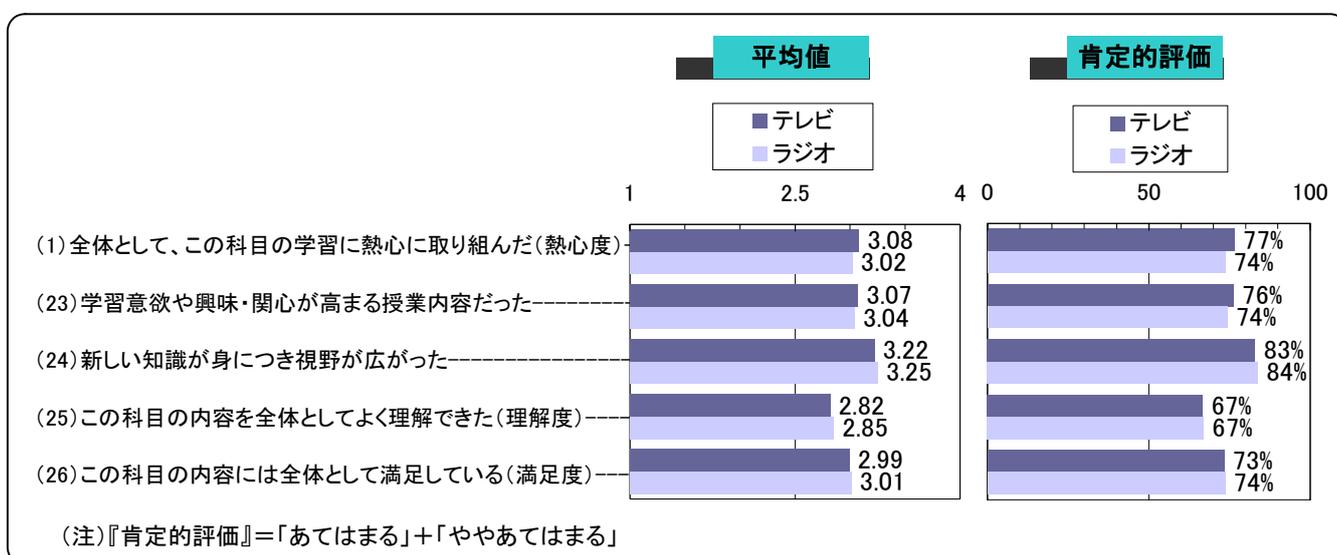
(注)『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。ただし設問12、13については、評価基準が逆であるため、『肯定的評価』=「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」とした。

### (3) 科目全体の評価（取り組み姿勢・理解度・満足度等）

ここでは、科目全体の評価である学習への取り組み姿勢及び理解度・満足度を、科目特性や属性別に見ていく。

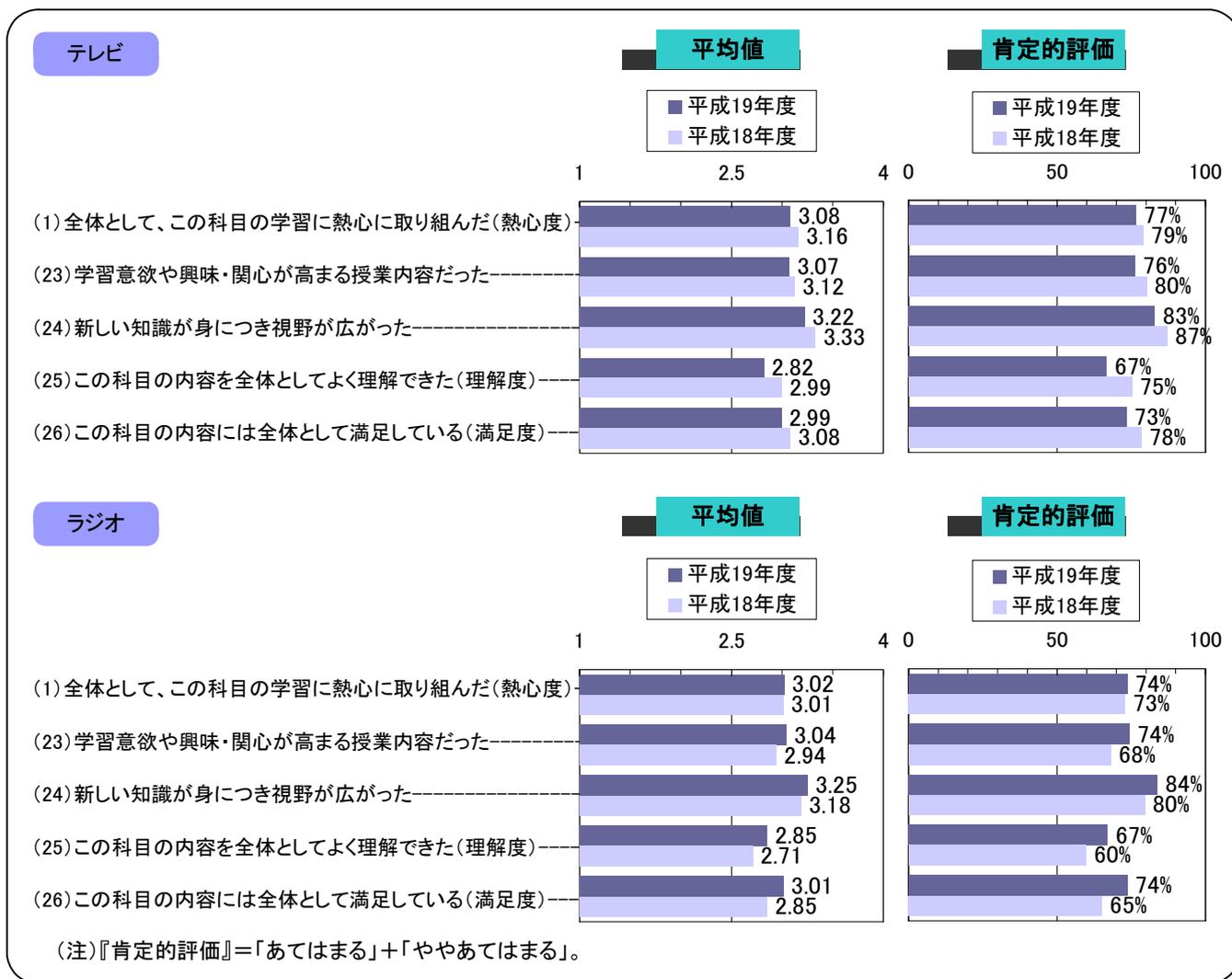
まずメディア別に見ると（図2-14）、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、テレビ科目の方が若干高い評価値を示しているが、それ以外の(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」及び(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(26)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、ほとんど差が見られない。前述のように放送授業や印刷教材ではメディア間の差が見られるが、総合的な評価では違いはないと判断できる。

図2-14 【学部】メディア別の全体評価



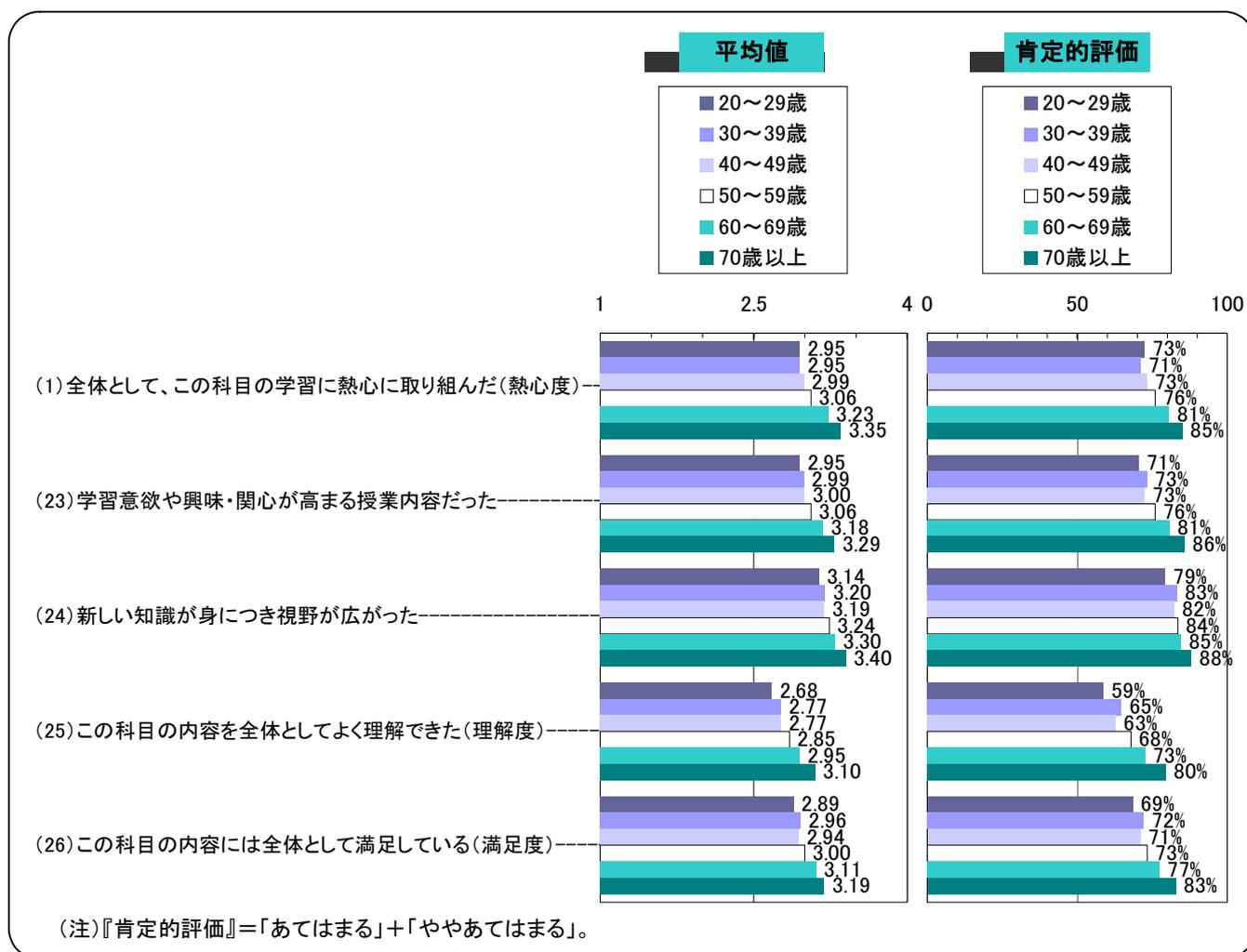
またメディア別に昨年度との違いを見てみると（次頁図2-15）、テレビ科目はいずれの項目も評価値が下がっているのに対し、ラジオ科目は(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」及び(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(26)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」において評価値が上がっている。これは昨年度と今回の調査対象科目の違いによる可能性も高いが、さらに今後の結果を見る必要がある。

図 2 - 1 5 【学部】メディア別の全体評価（時系列）



学部生の年齢階層別に見ると（図2-16）、いずれの全体評価も年齢の高い階層ほど評価値が高くなっている。高齢者ほど肯定的回答傾向が強いことも影響していると思われるが、さらに（1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」に注目するならば、高齢者ほど熱心に取り組んだ人が多く、熱心な学生ほど（25）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」が高くなるのは当然の帰結であろう。また（23）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、（24）「新しい知識が身につく視野が広がった」等の授業内容の評価が高ければ、（1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」や（26）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」が高くなるものと考えられる（後述するようにこれらの項目はいずれも高い相関を示している）。したがって本学の学生に限って言えば、高齢者ほど学習への取り組みが熱心で、新しい知識や授業への興味・関心が高いことが推察される。

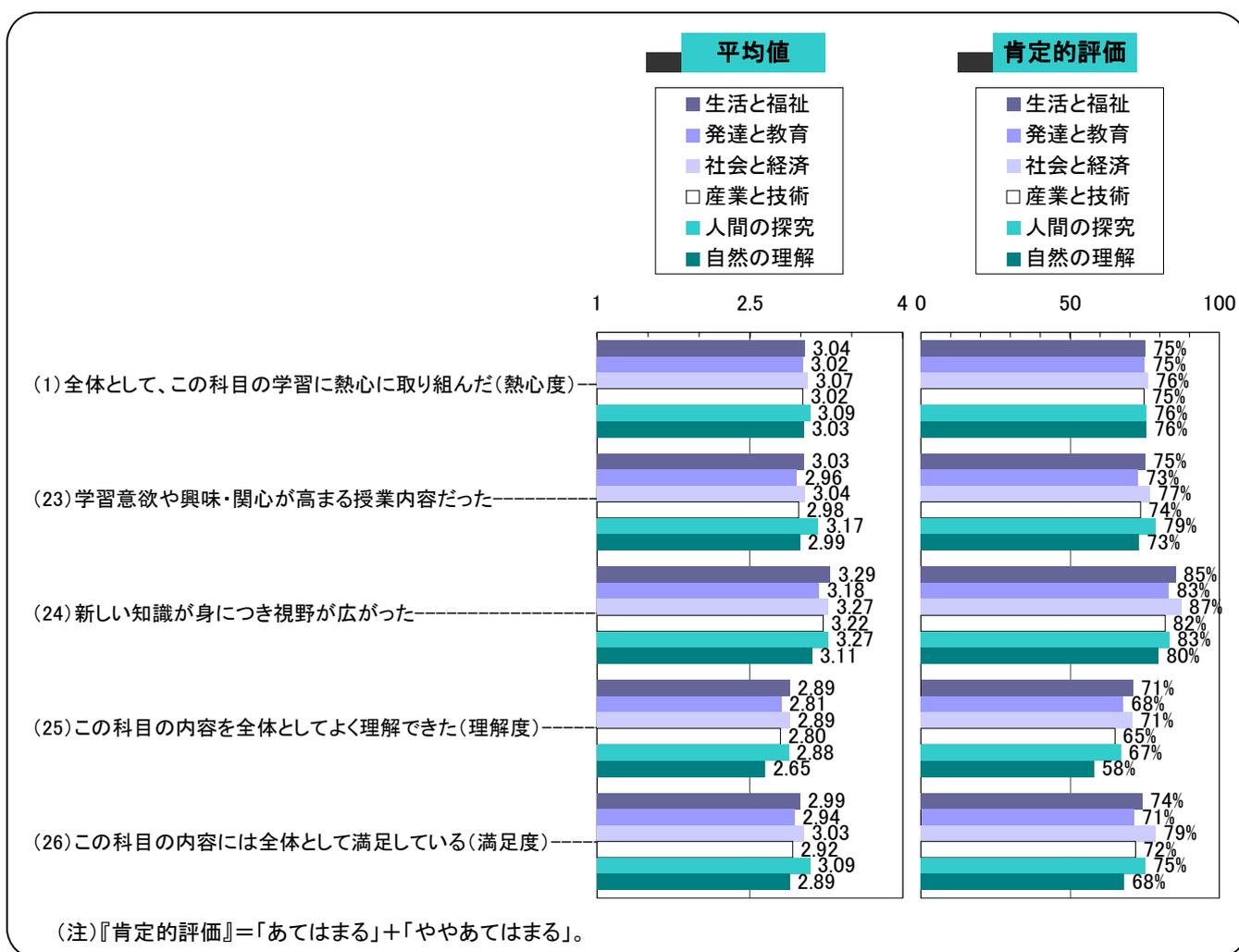
図2-16 【学部】年齢階層別の全体評価



科目の所属専攻別に全体評価を見ると（次頁図2-17）、（1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」においては専攻間の差はほとんど見られない。（23）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」では「人間の探究」が最も評価値が高くなっている。また（24）「新しい知識が身につく視野が広がった」、（25）「この

科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」及び（26）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」では、「自然の理解」の評価値が低くなっているが、「自然の理解」は難易度感が高いのが原因と考えられる。なお、（25）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」及び（26）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」の評価値が他の専攻より高いのは、「生活と福祉」「社会と経済」「人間の探究」である。

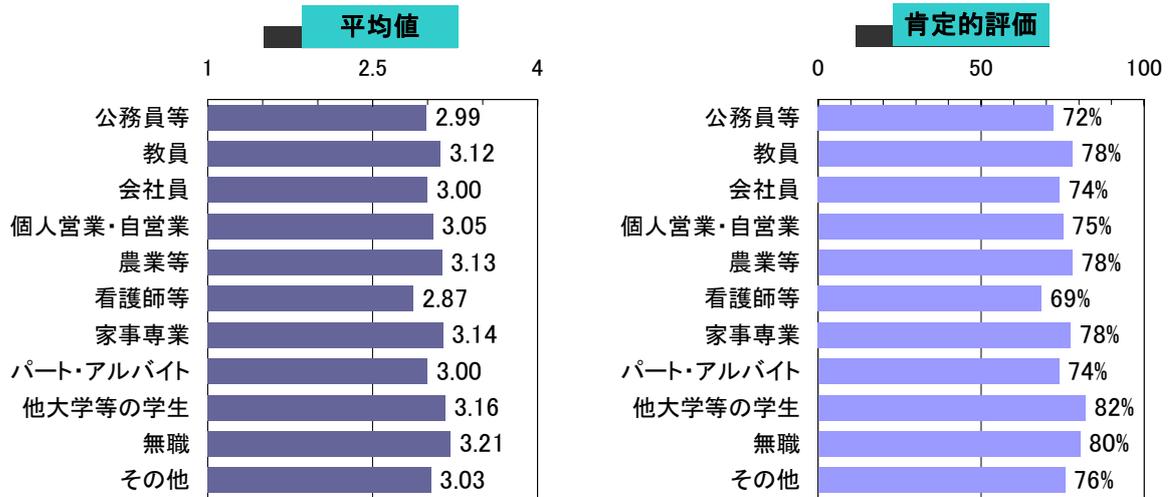
図 2 - 1 7 【学部】所属専攻別の全体評価



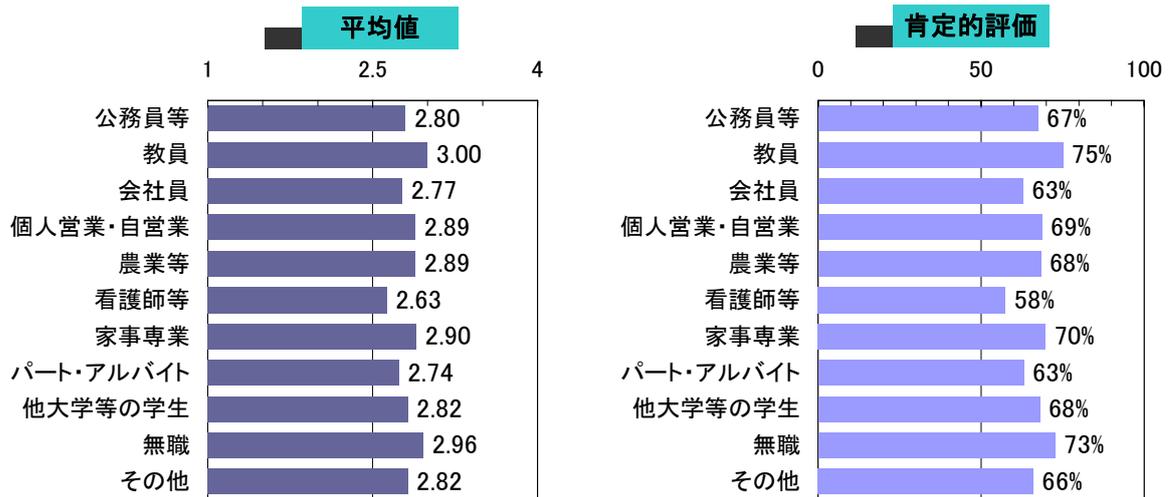
職業別に全体的な学習熱心度及び理解度・満足度について見てみる(次頁図 2 - 1 8)。(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」では、教員、農業等、家事専業、他大学等の学生、無職等が高くなっている(ただし農業等と他大学等の学生は回答数が少ないので参考にとどめた方がよい)。また(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」については、教員、家事専業、無職で評価値が高く、看護師等で低くなっている。全体評価に対して、こうした職業的な差異が見られることから、授業改善にあたっては、対象科目を受講する学生の職業も考慮に入れる必要があるだろう。

図 2 - 1 8 【学部】職業別の全体評価

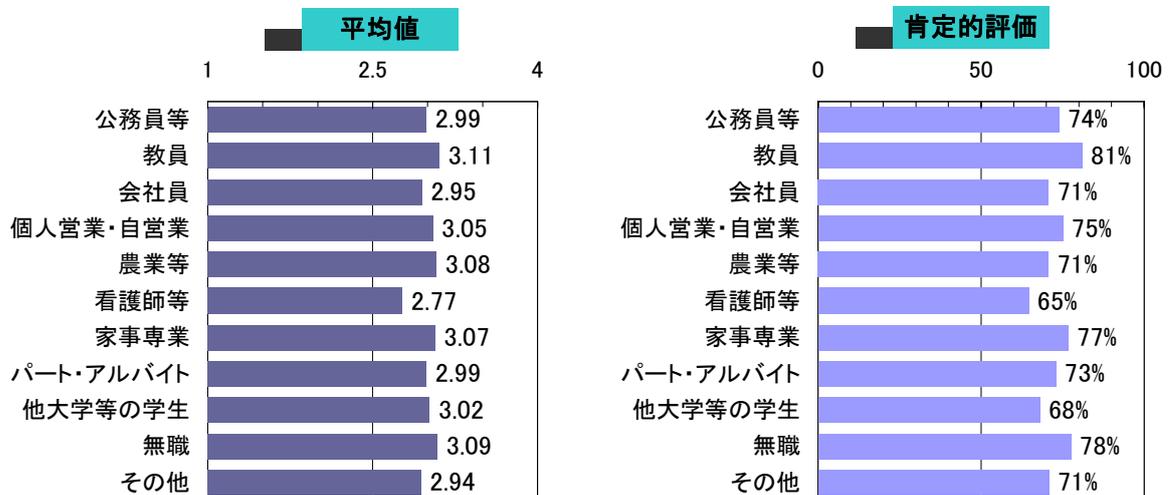
(1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(25)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(26)この科目の内容には全体として満足している(満足度)



(注)『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。

#### (4) 参考

ここでは評価項目間の相関を見ることによって、より深く授業改善の糸口を探っていくことにする。分析には主にピアソンの単相関係数（以下、相関係数）を用いた。相関係数は 1.0 から -1.0 までの値をとり、二つの変数間の変化のいわば「足並み」を示す指標である。それらが共変する場合（つまり片方の値が高ければもう一方も高く、低ければ低いという場合）は 1.0 に近づき、逆の変化をする場合は -1.0 に近づく。両者の変化に関係性がない場合は 0 に近づく。ただし、相関係数による分析では、変数間の共変関係は分かっても、因果関係（つまりどちらが原因となる変数で、どちらが結果かということ）は分からないのが普通である。以下の分析ではそのことを十分留意していただきたい。ただ、総合的な評価は個別の評価を考慮し、総合してなされるであろうことは想像に難くない。そのことを前提として、総合評価と個別評価との関係を見ていくことにしよう。

表 2-2 は、放送授業の各評価項目と (3)「放送授業を十分に視聴した（視聴度）」及び (9)「放送授業は教材としてよくできている（放送授業の総合評価）」の相関係数である。これを見ると、まず (3)「放送授業を十分に視聴した（視聴度）」と (9)「放送授業は教材としてよくできている（放送授業の総合評価）」との相関係数は 0.365（全体）と緩やかな相関が見てとれる。つまり視聴度の高い学生ほど、放送授業の総合評価が高い、あるいは逆に放送授業の総合評価が高い学生ほど、十分に視聴しているという関係にあると言える（おそらく相互作用の関係にあるものと思われる）。

表 2-2 【学部】放送授業と各項目との単相関係数

	【全体】		テレビ		ラジオ	
	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている
(3)放送授業を十分に視聴した(視聴度)	1.000	0.365	1.000	0.378	1.000	0.336
(4)自分にとって放送授業の内容は難しすぎと感じた	0.021	0.136	0.061	0.161	-0.032	0.100
(5)放送授業の内容は分量が多すぎと感じた	0.052	0.159	0.073	0.178	0.022	0.130
(6)放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった	0.127	0.317	0.133	0.314	0.087	0.307
(7)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.366	0.676	0.361	0.682	0.364	0.663
(8)講師の熱意が十分に伝わった	0.384	0.680	0.375	0.681	0.384	0.675
(9)放送授業は教材としてよくできていると感じた(放送授業の総合評価)	0.365	1.000	0.378	1.000	0.336	1.000
(10)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.365	0.595	0.387	0.653	0.306	0.515

(注)設問4、5、6については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4→1、3→2、2→3、1→4と逆転した上で、相関係数を算出している。

また (3)「放送授業を十分に視聴した（視聴度）」と (9)「放送授業は教材としてよく

できている（放送授業の総合評価）」は、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」との相関が見られる。特に(9)「放送授業は教材としてよくできている（放送授業の総合評価）」は、これらの項目と強い相関が見られるため、放送授業の総合的な評価を高めるためには、ポイントをおさえた分かりやすい説明や講師の熱意、さらにテレビ科目では映像を生かした放送、ラジオ科目では映像がなくても理解できる内容であることが、特に重要であると推察される。さらにこうした放送授業であれば多少なりとも視聴度をあげる要因にもなりうると言えよう。

なお各評価項目間の相関係数は、テレビ科目とラジオ科目であまり大きな差は見られない。後述の印刷教材及び全体評価についても同様のことが言える。

表 2 - 3 【学部】印刷教材と各項目との単相関係数

	【全体】		テレビ		ラジオ	
	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている
(11)印刷教材を熱心に学習した(熱心度)	1.000	0.310	1.000	0.326	1.000	0.286
(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎと感じた	0.161	0.276	0.162	0.284	0.158	0.264
(13)印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた	0.159	0.269	0.163	0.273	0.153	0.262
(14)印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった	0.204	0.407	0.211	0.425	0.199	0.385
(15)印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた	-0.017	0.060	0.000	0.060	-0.035	0.063
(16)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.310	0.685	0.315	0.685	0.302	0.685
(17)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.219	0.603	0.231	0.629	0.214	0.577
(18)印刷教材は教材としてよくできていると感じた(印刷教材の総合評価)	0.310	1.000	0.326	1.000	0.286	1.000

(注)設問12、13、15については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4→1、3→2、2→3、1→4と逆転した上で、相関係数を算出している。

次に印刷教材の各評価項目と(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」及び印刷教材の総合評価である(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」の相関をしてみる(表2-3)。(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」と(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」の相関係数は、こちらも0.310(全体)と弱いながらも相関が見られ、印刷教材を熱心に学習した学生ほど、教材の評価が高いと考えられる(その逆の関係も想定される)。また(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」と相関の強い項目は、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(17)「図表や写真等が適切に用いられ、

内容の理解に役立った」であり、さらに(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」とも相関が見られる。したがって印刷教材の総合評価を高めるためには、教材の説明の分かりやすさ、図表・写真等の掲載、放送授業の内容との関連性等が特に大切であると推察される。

表 2-4 【学部】全体評価と各項目との単相関係数

		【全体】			テレビ			ラジオ			
		(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	
	(1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.523	0.470	1.000	0.524	0.484	1.000	0.523	0.450	
	(2)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.349	0.404	0.470	0.366	0.412	0.483	0.326	0.390	0.451	
放送 授業	(3)放送授業を十分に視聴した(視聴度)	0.593	0.326	0.306	0.613	0.359	0.338	0.567	0.289	0.266	
	(4)自分にとって放送授業の内容は難しすぎると感じた	0.178	0.488	0.380	0.205	0.507	0.402	0.138	0.454	0.344	
	(5)放送授業の内容は分量が多すぎると感じた	0.154	0.403	0.376	0.174	0.418	0.391	0.124	0.378	0.350	
	(6)放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった	0.152	0.229	0.343	0.158	0.234	0.347	0.137	0.235	0.349	
	(7)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.350	0.445	0.535	0.360	0.477	0.554	0.332	0.399	0.507	
	(8)講師の熱意が十分に伝わった	0.333	0.347	0.467	0.345	0.355	0.479	0.312	0.341	0.455	
	(9)放送授業は教材としてよくできていると感じた(放送授業の総合評価)	0.331	0.406	0.542	0.353	0.414	0.551	0.296	0.398	0.532	
	(10)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.295	0.390	0.451	0.309	0.373	0.468	0.278	0.446	0.453	
	印刷 授業	(11)印刷教材を熱心に学習した(熱心度)	0.679	0.449	0.392	0.676	0.444	0.390	0.689	0.456	0.395
		(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた	0.207	0.509	0.405	0.213	0.518	0.411	0.201	0.493	0.396
(13)印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた		0.179	0.406	0.375	0.178	0.413	0.381	0.182	0.394	0.364	
(14)印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった		0.263	0.287	0.376	0.261	0.307	0.395	0.263	0.261	0.348	
(15)印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた		0.018	0.054	0.112	0.037	0.066	0.124	-0.013	0.040	0.095	
(16)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった		0.327	0.558	0.606	0.327	0.551	0.596	0.328	0.568	0.621	
(17)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った		0.231	0.355	0.421	0.241	0.353	0.418	0.214	0.367	0.431	
(18)印刷教材は教材としてよくできていると感じた(印刷教材の総合評価)		0.314	0.489	0.614	0.323	0.483	0.608	0.304	0.499	0.625	
通信 指導・ 試験		(19)通信指導のコメントは納得のいくものだった	0.256	0.357	0.426	0.278	0.376	0.443	0.225	0.331	0.402
	(20)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.294	0.403	0.471	0.297	0.403	0.465	0.291	0.402	0.481	
	(21)単位認定試験にはほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ	0.101	0.001	0.001	0.112	0.031	0.048	0.077	-0.043	-0.072	
	(22)単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった	0.253	0.400	0.506	0.256	0.389	0.496	0.253	0.416	0.522	
全体 評価	(23)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.493	0.620	0.753	0.502	0.618	0.757	0.479	0.626	0.746	
	(24)新しい知識が身につく視野が広がった	0.450	0.592	0.686	0.464	0.593	0.691	0.429	0.588	0.678	
	(25)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.523	1.000	0.756	0.524	1.000	0.758	0.523	1.000	0.752	
	(26)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.470	0.756	1.000	0.484	0.758	1.000	0.450	0.752	1.000	

(注)設問4、5、6、12、13、15、21については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4→1、3→2、2→3、1→4と逆転した上で、相関係数を算出している。

また全評価項目と(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」の相関を見してみる(前頁表2-4)。

まず(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は、(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」、(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」等個別の視聴度・熱心度との相関が強いのは当然であるが、さらに(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」及び(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との間にも相関が見られる。つまり熱心な学生ほど、授業内容や理解度、満足度の評価が高いことが推測できる。

(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」と各評価項目間の相関を見ると、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との間に強い相関が見られるほか、(4)「放送授業の内容は難しすぎると感じた」、(5)「放送授業の内容は分量が多すぎると感じた」、(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」、(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」、それに(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」等との相関が見られる。理解度については、単に放送授業や教材の難易度や分かりやすさ、出来栄だけでなく、授業内容への興味・関心や知識の習得といった側面とも関連していることがうかがえる。

(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との相関が強い項目は、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」のほか、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」、(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」、及び(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」等となっている。科目の難易度や分量よりも、説明の分かりやすさや授業・教材の出来栄、授業内容への興味・関心や知識の習得との関連が強いと言える。なお、理解度と満足度とはかなり強い相関が見られるが、理解度が高かったのが満足度が高くなったのか、満足度が高いために理解度も高くなったのかは、簡単には結論を導き出せない。おそらく相互に影響していると考えられるが、この点は今後の研究に待つ必要がある。

## (評定尺度調査の分析結果)

### Ⅱ-2. 大学院票結果の分析

#### Ⅱ-2-1. 回答者全体から見た分析

ここからは大学院科目の評価結果を見ていく。大学院の回答者全体について、評価項目ごとの結果を示したものが次頁の図2-19である。

まず学部生と比べると、通信指導・単位認定試験以外の放送授業、印刷教材そして全体評価のほとんどで、学部生より評価が高くなっているという特徴があげられる。

全体評価の(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、平均値が3.19、肯定的評価(満足とした学生の割合)は82%と高い値を示している。不満層が18%ほど見られるが、学部生に比べ、平均値で0.19、肯定的評価で9%高くなっている。

(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」に関しても、平均値3.06、肯定的評価(よく理解できたと思う学生)78%と学部生より高くなっている。ただし残りの22%はよく理解できていないことを考えると、今後も理解度の向上に注力する必要がある。

さらに(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」も平均値3.28、肯定的評価(熱心に取り組んだという学生)84%と高くなっている。大学院生は学部生より全体評価としての満足度及び理解度が高いが、これが放送授業や印刷教材の違いによるものなのか、あるいは学生の熱心度の違いによるものなのかは、今後明らかにしていく必要がある。

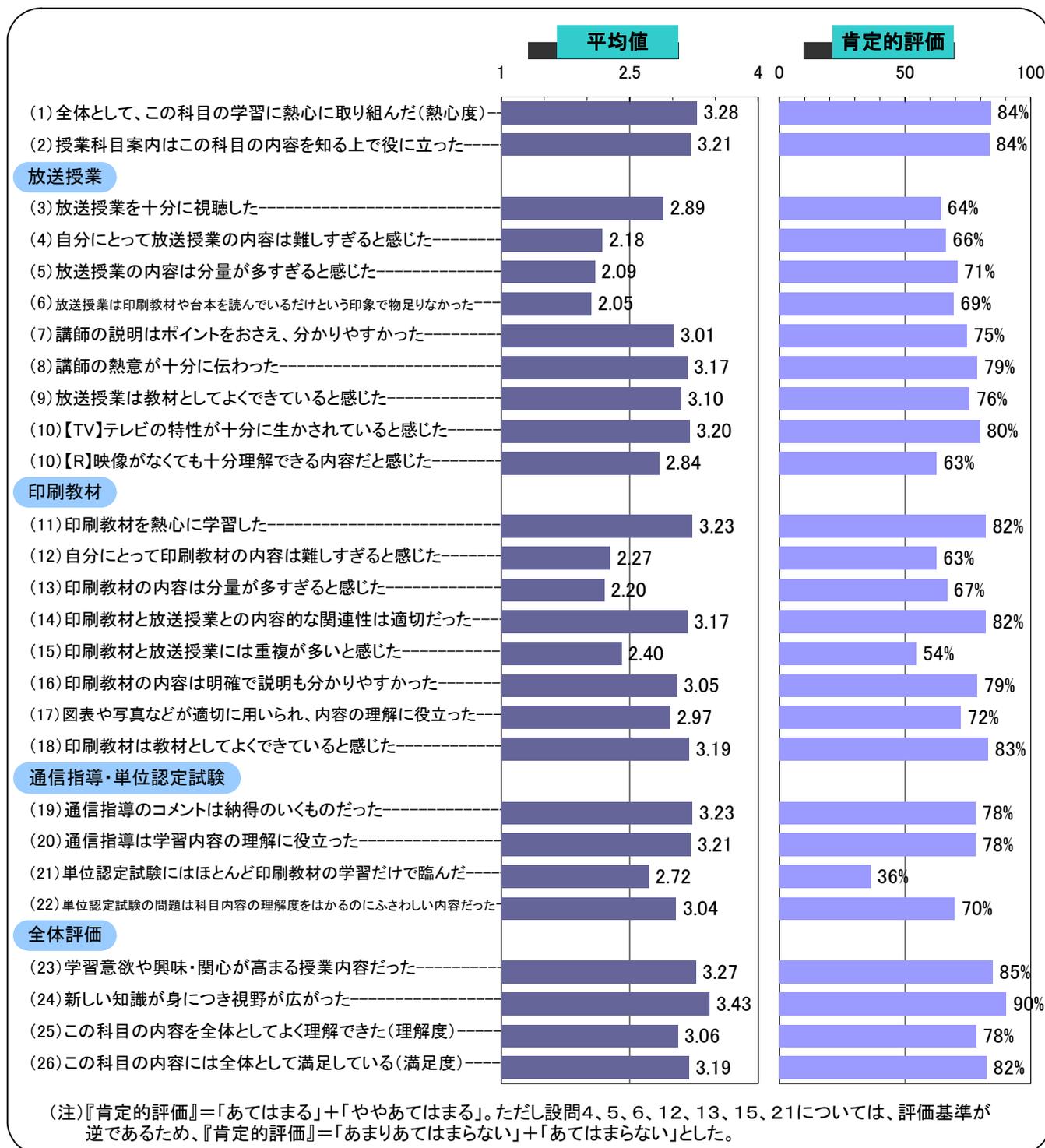
放送授業に関しては、放送授業の総合評価とも言える(9)「教材としてよくできていると感じた」は、平均値3.10、肯定的評価76%と比較的高くなっている。また(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」等の講師の授業方法や、テレビ科目の(10)「テレビの特性が十分に生かされていると感じた」についてもまずまず高い評価値と言えよう。

しかし学部と同じく、ラジオ科目の(10)「映像がなくても十分に理解できる内容だと感じた」は、平均値2.84と評価値が低く、肯定的評価も63%にすぎず、さらなる工夫が必要と言える。

放送授業の内容については、(4)「難しすぎると感じた」、(5)「分量が多すぎると感じた」では、「そう思わない」という肯定的評価がそれぞれ66%、71%であり、学部生よりも多い。学部生に比べ、難易度や分量の評価は高いと言える。

(3)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.89、肯定的評価 64%とやや低くなっている。印刷教材の(11)「印刷教材を熱心に学習した」(平均値 3.23、肯定的評価 82%)と比べるとかなり低い数字である。なお、放送授業に関する項目の中では、(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」は学部生と大学院生で差は見られないが、それ以外の項目は全て大学院生の方が、評価値が高くなっている。

図 2 - 1 9 【大学院】回答者全体の評価



印刷教材の総合評価とも言える(18)「教材としてよくできていると感じた」も、平均値 3.19、肯定的評価 83%と非常に高い評価である。印刷教材の内容については、(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」等理解のしやすさという点で評価が高い。

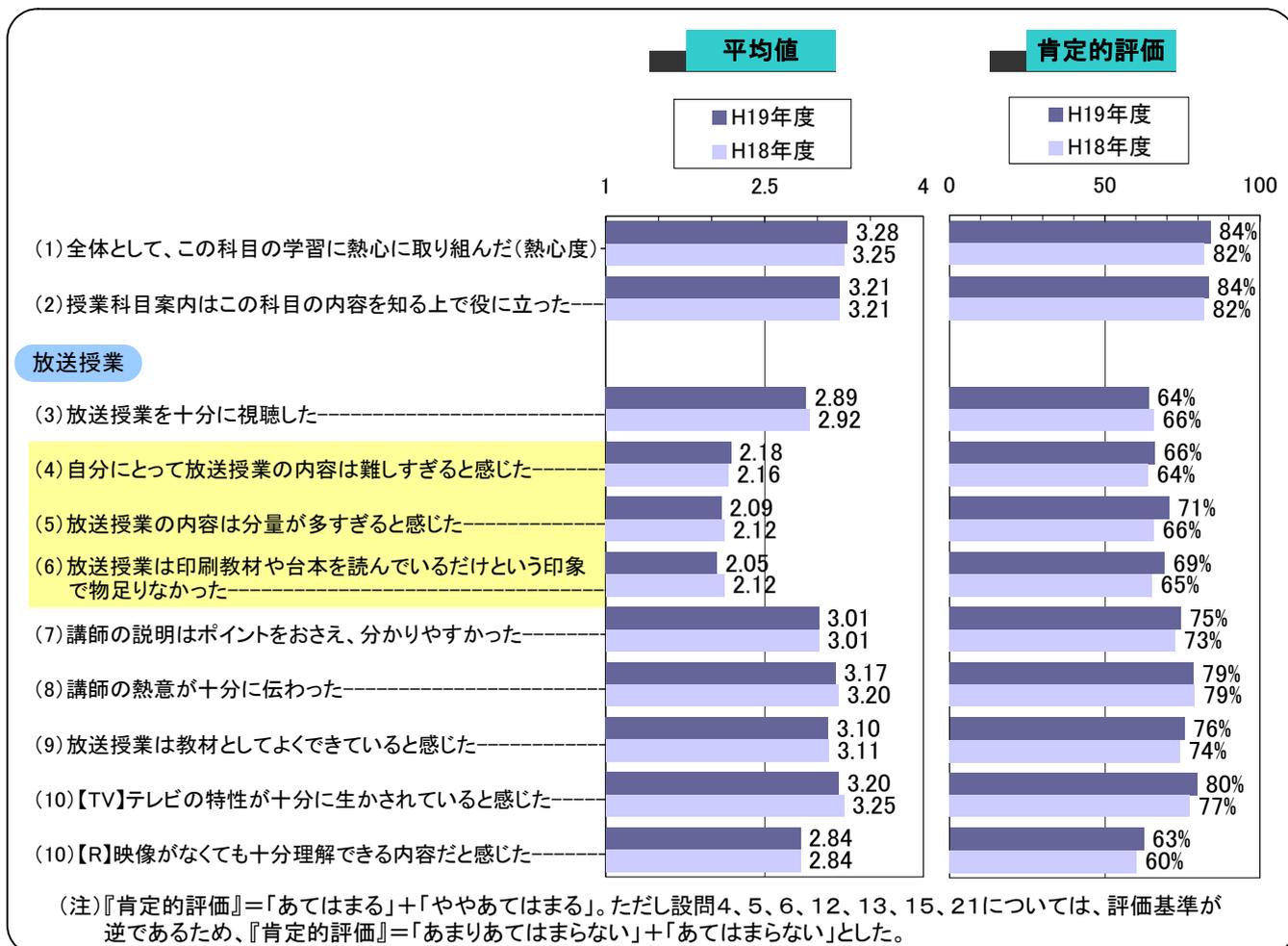
(12)「印刷教材の内容は難しすぎると感じた」、(13)「印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた」では、「そう思わない」という肯定的評価がそれぞれ 63%、67%であり、学部生に比べ難易度・分量の負担感は少ない。

一方、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」という学生は半数弱を占めており(「そう思わない」という肯定的評価は 54%)、学部同様、改善すべき課題と言えよう。

なお、通信指導の(19)「コメントは納得のいくものだった」、(20)「学習内容の理解に役立った」、単位認定試験の(22)「科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は、高い評価値を得ている。

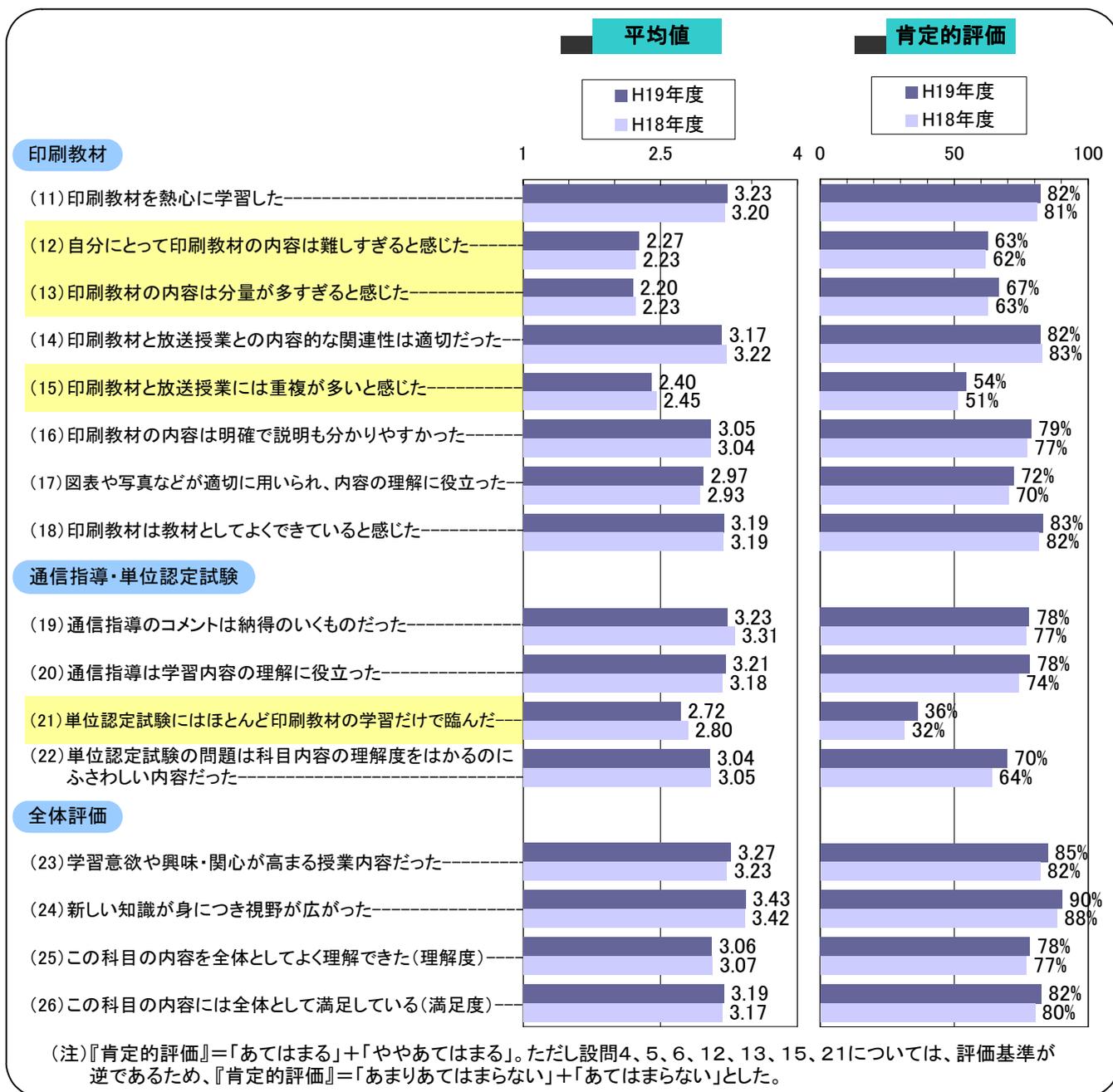
次に、回答者全体の評価を、昨年度との比較で見える(図2-20、図2-21)。(ただし、昨年度とは調査対象科目が異なるため、参考程度にとどめておく)。

図2-20 【大学院】回答者全体の評価(時系列)



昨年度と比べて大きな変化は見られない。ただ、(6)「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」という学生はわずかではあるが減少している。また、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は評価値が若干向上している。逆に、評価値がやや下がっている項目は、(10)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた」、(14)「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」等である。

図 2 - 2 1 【大学院】回答者全体の評価（時系列）



## Ⅱ-2-2. 科目特性別及び回答者の属性別の評価

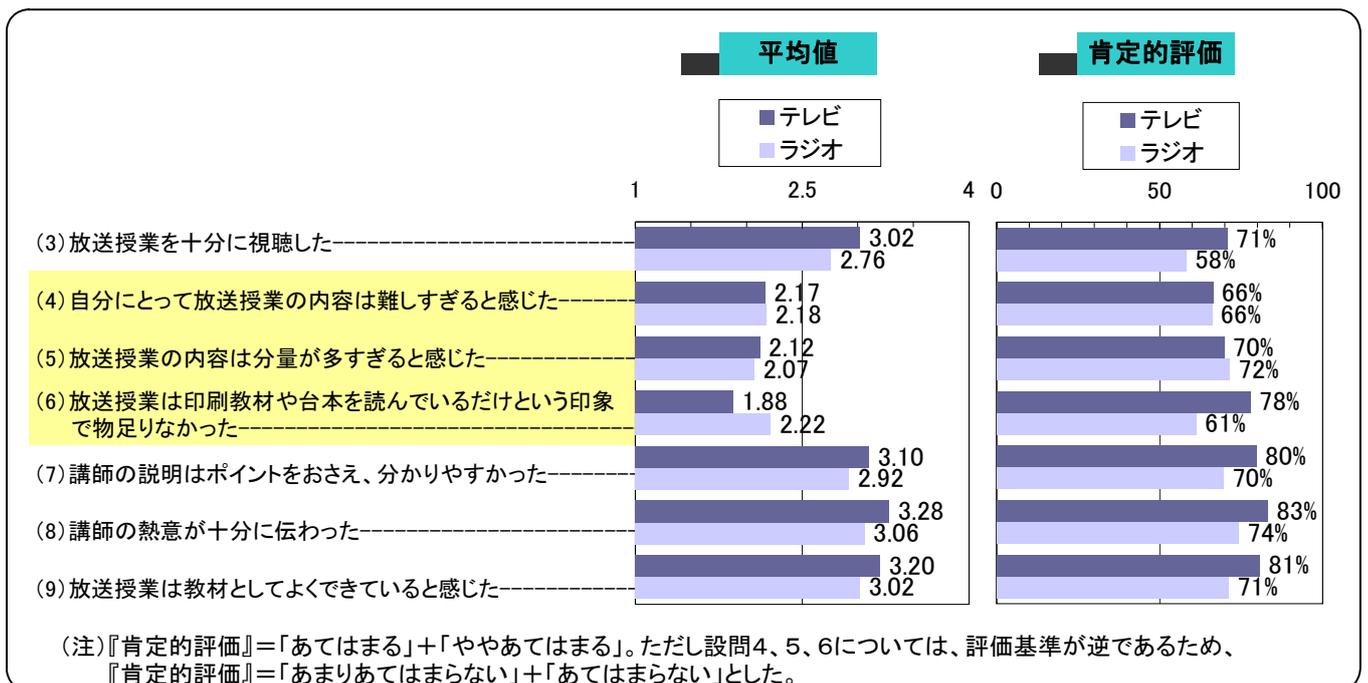
### (1) 放送授業に関する評価結果

ここからは、大学院の各評価項目に関して、メディア、所属プログラム（群）、回答者の年齢構成・職業等の属性別に見ていく。

まず放送授業に関する項目をメディア別に見ると（図2-22）、放送授業の総合評価と言える（9）「教材としてよくできていると感じた」は、ラジオ科目に比べ、テレビ科目の方が、評価が高くなっている。その要因は学部と同様、授業の難易度や分量といった内容的な評価差ではなく、講師の授業方法の評価差にあると推察される。つまり、（4）「放送授業の内容は難しすぎと感じた」や（5）「放送授業の内容は分量が多すぎと感じた」という点では、両メディアの評価差はほとんどなく、（6）「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」、（7）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、（8）「講師の熱意が十分に伝わった」等の項目において、両メディアの評価差が大きくなっているためである。今後、ラジオ科目をテレビ科目に変更するなど、改善を図る必要があると言えよう。

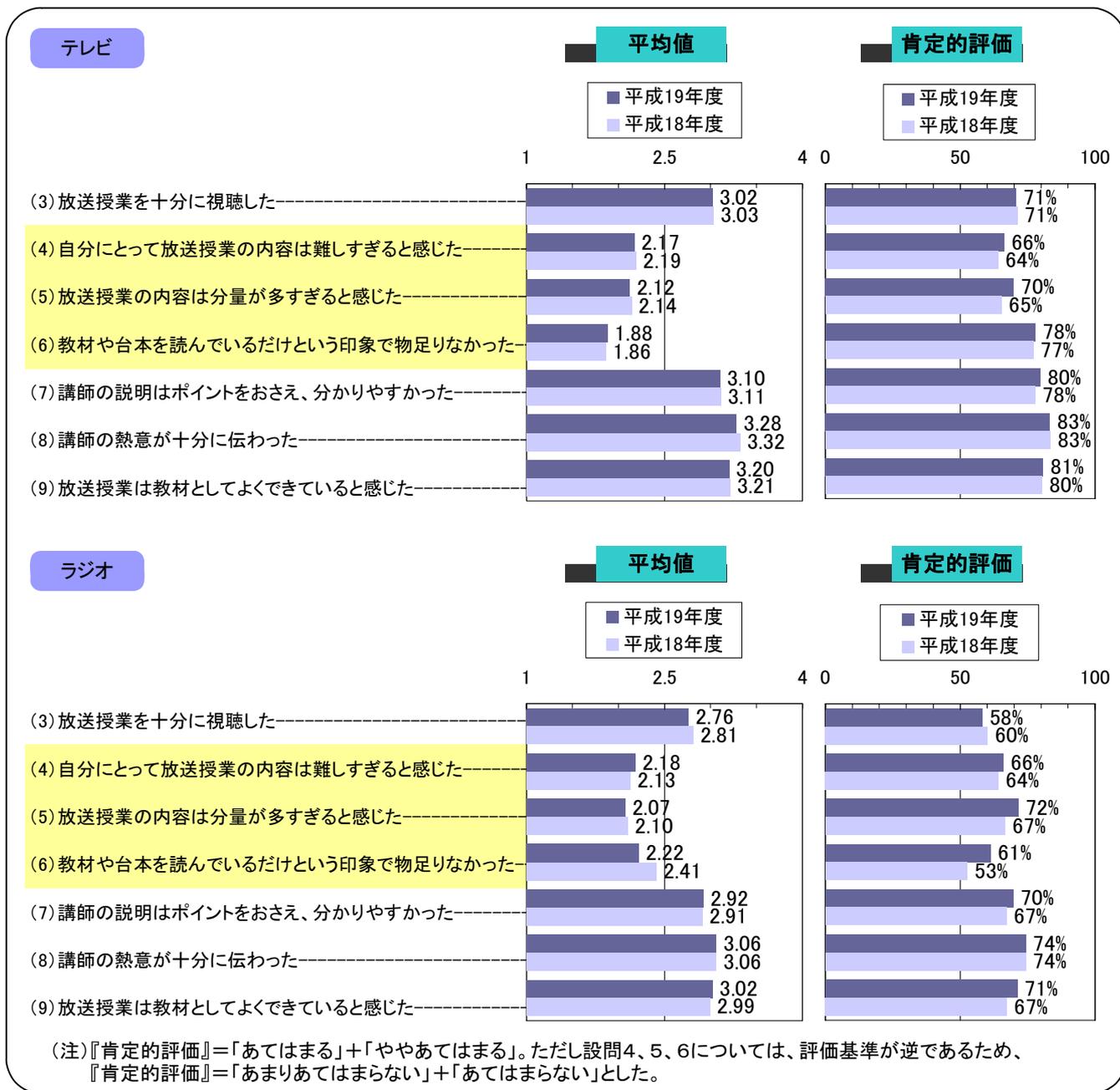
また、（3）「放送授業を十分に視聴した」という学生も、ラジオ科目に比してテレビ科目の方が多くなっている。十分に視聴したかどうかは、学部と同様、単に学生側の時間的な制約の問題だけでなく、授業の分かりやすさや、講師の熱意、教材としての出来栄とも関係してくるため、教材としてのレベルをあげることが、視聴度を上げる1つのポイントとも言える。逆に言えば、教材として問題があれば、十分に視聴されないということである。

図2-22 【大学院】メディア別の「放送授業」評価



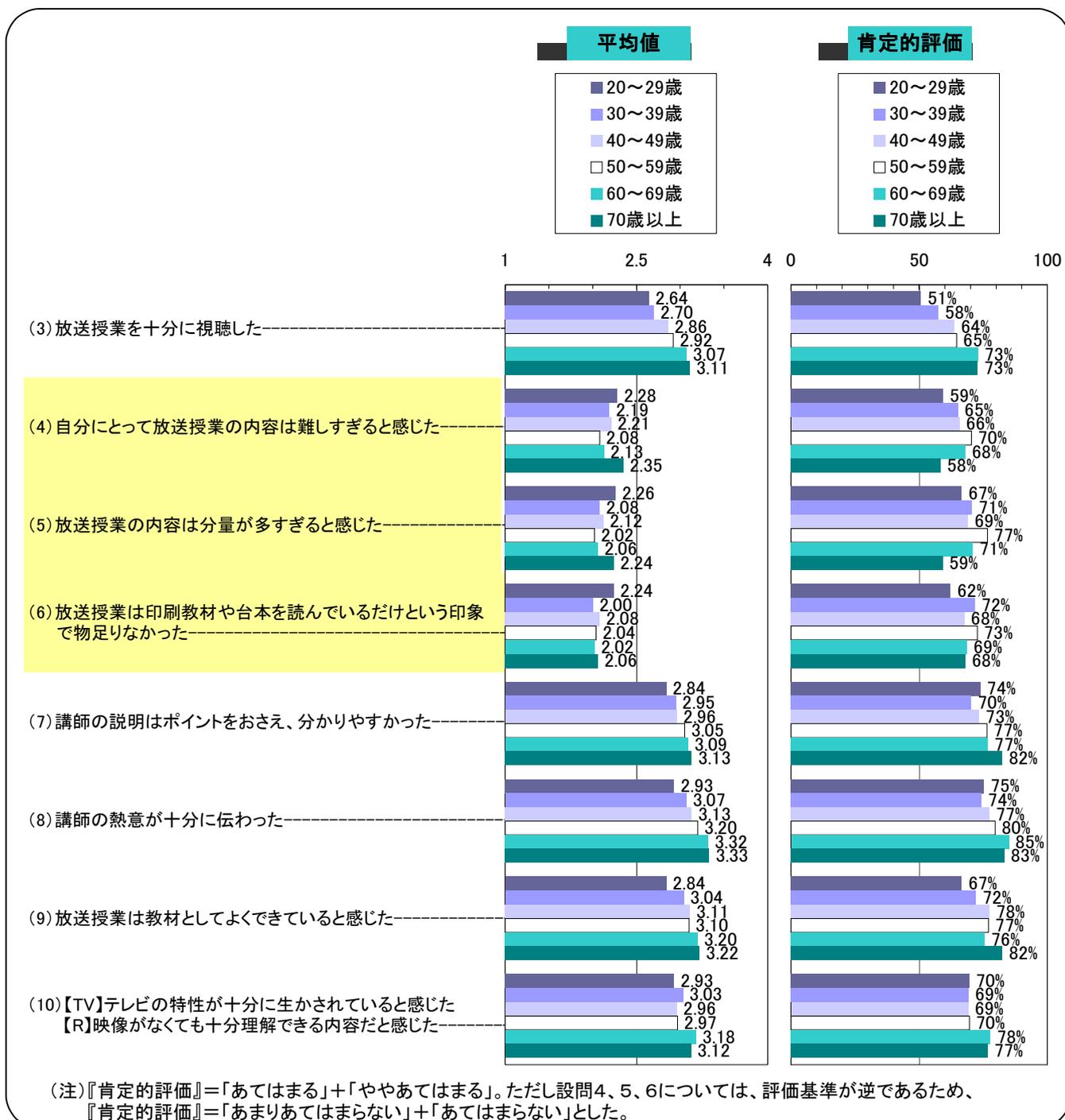
次に、メディア別に昨年度との比較を見ると（図2-23）、テレビ科目はあまり大きな変化が見られない。一方、ラジオ科目では（3）「放送授業を十分に視聴した」が昨年度より若干低くなっているが、（6）「放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった」という学生は減少している。

図2-23 【大学院】メディア別の「放送授業」評価（時系列）



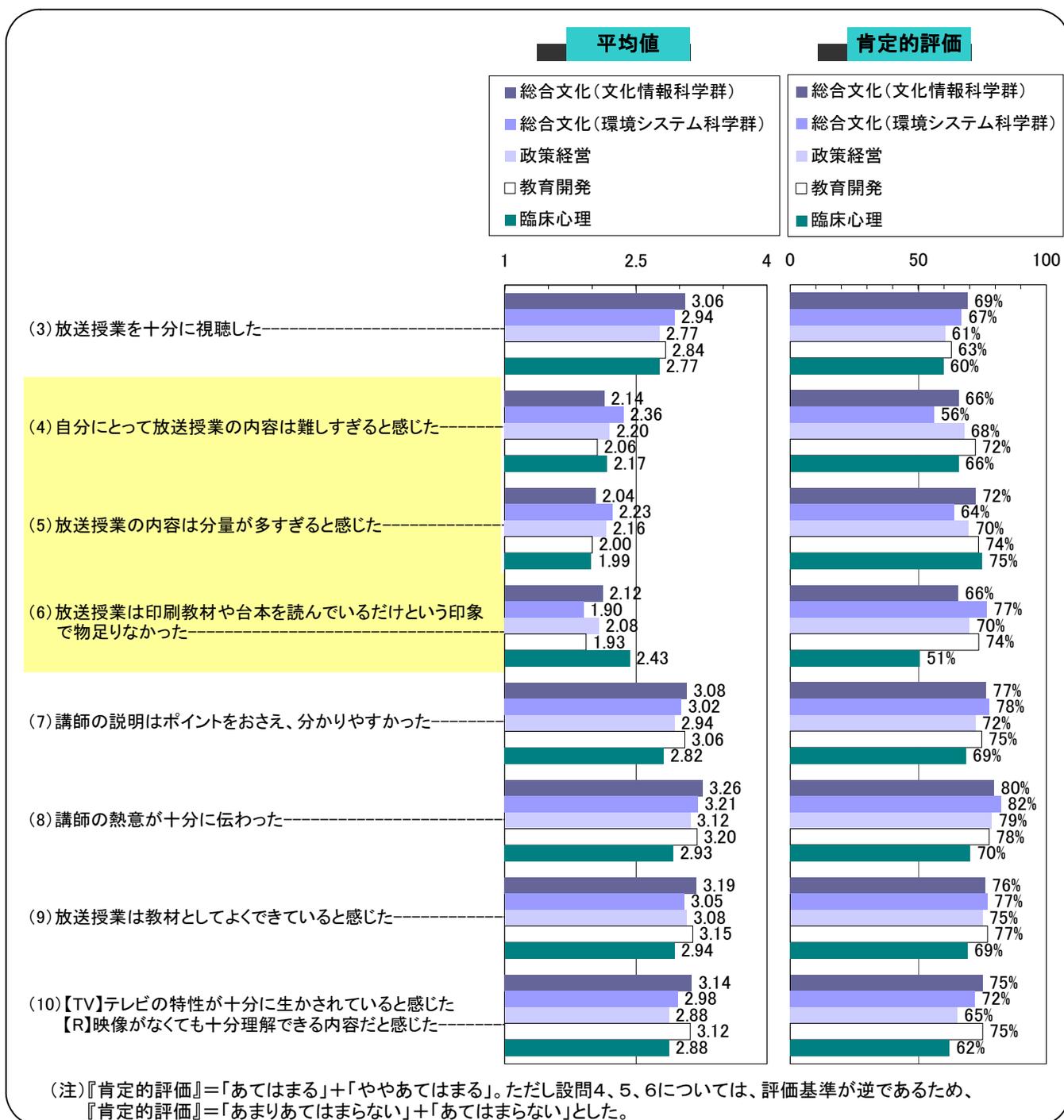
放送授業に関して、大学院生の年齢階層別に見ると（図2-24）、(3)「十分に視聴した」学生は、年齢の高い階層ほど多くなっている。同様に、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「テレビの特性が生かされている／映像がなくても十分理解できる」、そして総合評価としての(9)「教材としてよくできていると感じた」も年齢の高い層ほど評価値が高い。一方、(4)「難しすぎると感じた」、(5)「分量が多すぎると感じた」という学生の比率は、20代と70歳以上で多くなっている。ただこれらの年代は学生全体の割合からすれば少数であり、中心的な年代である30～60代はまずまずの評価となっているので、性急な改変は控えるべきであろう。

図2-24 【大学院】年齢階層別の「放送授業」評価



放送授業に関して、科目の所属プログラム別にみると（図2-25）、(3)「放送授業を十分に視聴した」は、「総合文化（文化情報科学群）」と「総合文化（環境システム科学群）」で多くなっている。「総合文化（文化情報科学群）」は年齢の高い層が多いことも影響しているものと思われる。「総合文化（環境システム科学群）」は、属性的な特徴は見られないが、放送授業の教材としての出来栄えがよかったことも考えられよう。(4)「難しすぎると感じた」、(5)「分量が多すぎると感じた」という学生の比率は「総合文化（環境システム科学群）」が、他のプログラムに比べ多くなっている。

図2-25 【大学院】所属プログラム（群）別の「放送授業」評価



講師の授業方法についての(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」及び総合評価としての(9)「教材としてよくできていると感じた」は、「総合文化(文化情報科学群)」「総合文化(環境システム科学群)」「教育開発」等の評価値が高い。「総合文化(環境システム科学群)」は、教材としての出来栄はよいものの、内容的な難易度や分量で検討の余地があるかもしれない。一方、これらの項目に関して「臨床心理」の評価値が極端に低くなっている。これは今回の「臨床心理」が2科目のみの評価であり、個々の科目の影響が強く出ていると考えられる。「臨床心理」に次いで「政策経営」も、講師の授業方法や総合評価が低くなっている。

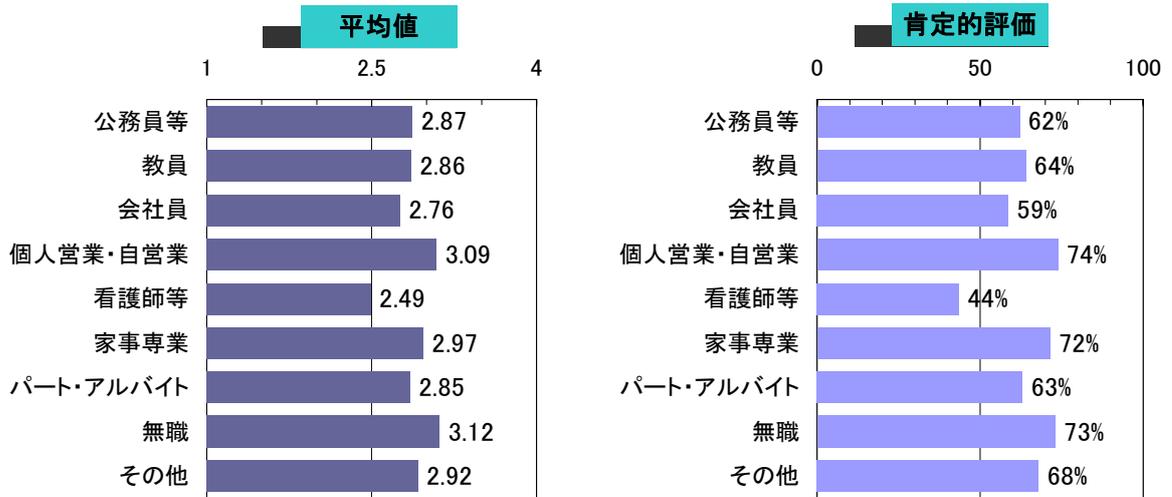
さらに、大学院生の職業別に視聴の十分さ及び難易度・分量について見てみる(次頁の図2-26)。なお、農業等及び他大学等の学生は回答数が5人以下と少ないため、掲載しなかった。

(3)「放送授業を十分に視聴した」という学生は、学部と同様、家事専業、無職、個人営業・自営業等、比較的時間の融通がききやすいと思われる層で多くなっている。逆に看護師等は、他の職種に比べ、十分に視聴した人がかなり少ない。

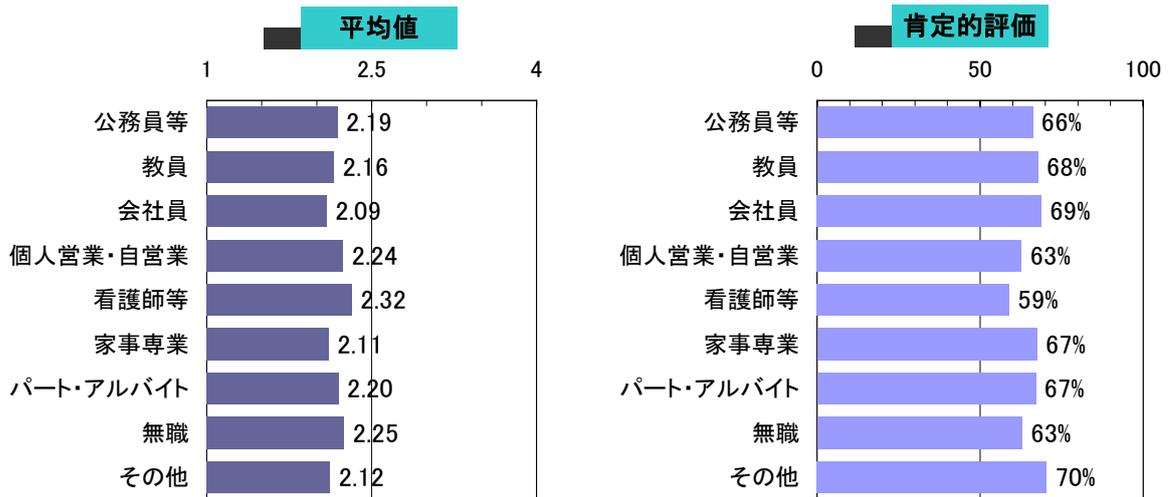
(4)「内容が難しすぎると感じた」という学生は、やはり視聴が十分でない看護師等で多く、(5)「分量が多すぎると感じた」という学生は、個人営業・自営業で多くなっている。

図 2 - 2 6 【大学院】職業別の「放送授業」評価

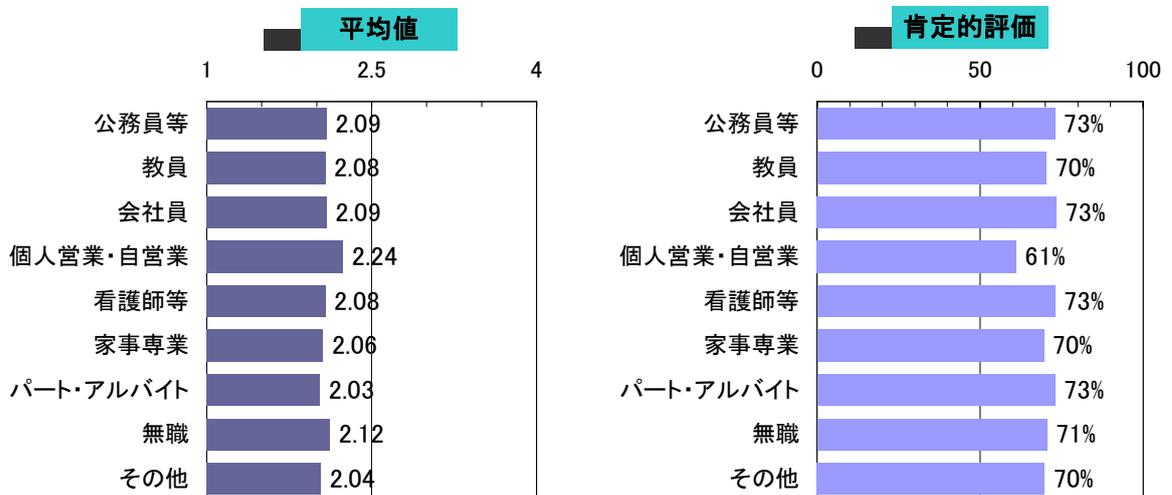
(3) 放送授業を十分に視聴した



(4) 自分にとって放送授業の内容は難しすぎと感じた



(5) 放送授業の内容は分量が多すぎと感じた



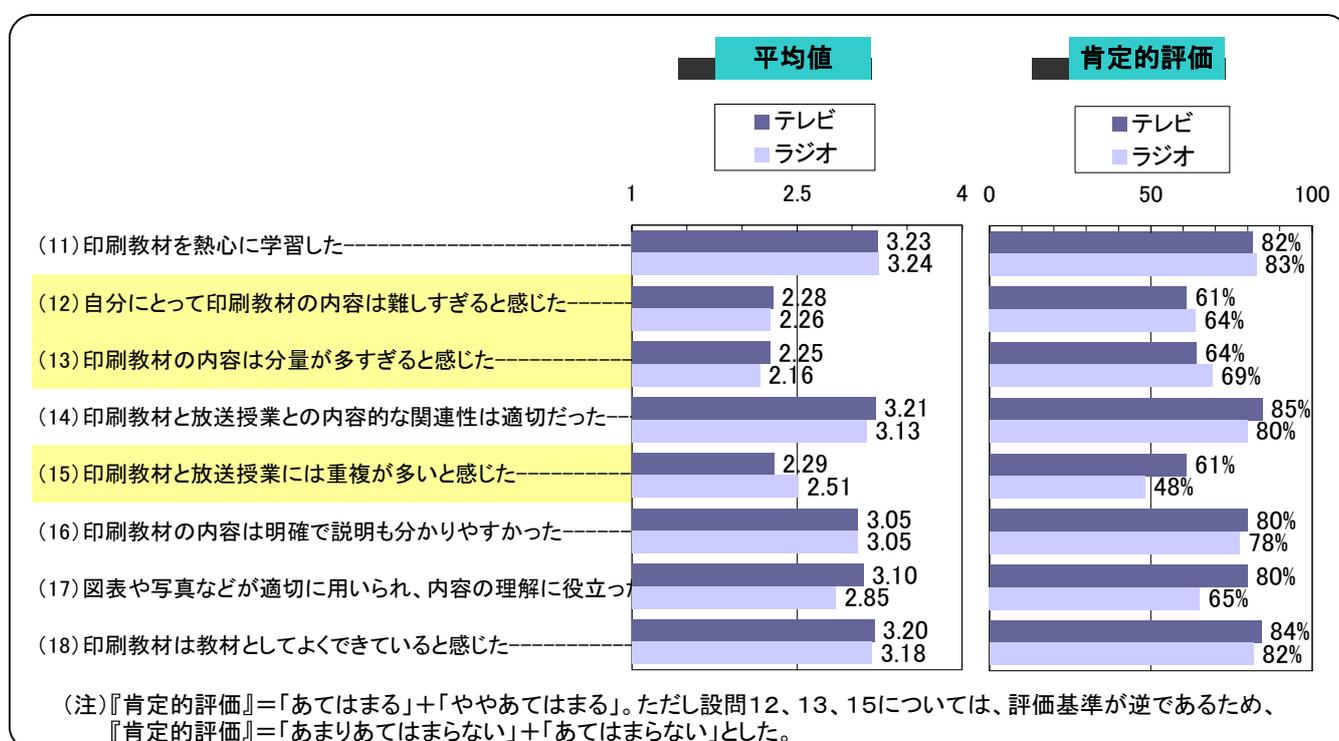
(注)『肯定的評価』＝「あてはまる」＋「ややあてはまる」。ただし設問4、5については、評価基準が逆であるため、『肯定的評価』＝「あまりあてはまらない」＋「あてはまらない」とした。

## (2) 印刷教材に関する評価結果

ここからは、大学院の印刷教材に関する評価結果を見ていく。

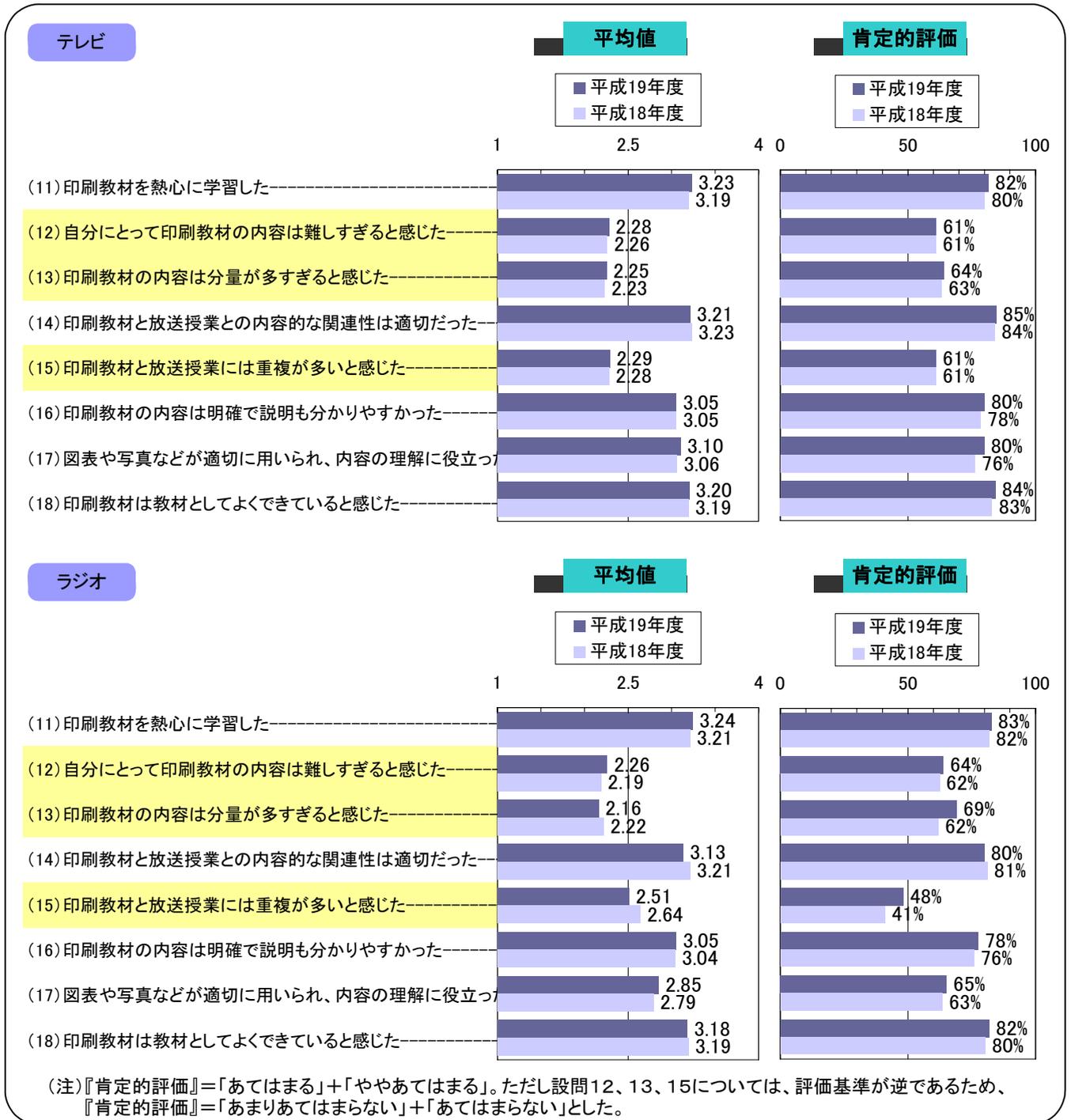
まず、メディア別に見ると（図2-27）、(11)「熱心に学習した」及び(18)「教材としてよくできていると感じた」は、メディア間の差はほとんど見られず、学習の熱心度、教材の総合評価に違いはないと言える。しかし、昨年度と同様、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」は、テレビ科目に比べ、ラジオ科目の評価値が低くなっている。本来、映像を伴わないラジオ科目でこそ、印刷教材において、図表等を有効に活用すべきであろうが、そうした評価にはなっていない点に留意する必要がある。

図2-27 【大学院】メディア別の「印刷教材」評価



さらに、メディア別の印刷教材の評価を昨年度の結果と比較すると（図2-28）、テレビ科目ではほとんど差が見られないが、ラジオ科目では(13)「分量が多すぎると感じた」、(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」という学生は昨年度より減少している。ただし(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」については、評価は良くなっているものの、前頁のようにテレビ科目と比べると、まだ改善が求められるよう。

図2-28 【大学院】メディア別の「印刷教材」評価（時系列）

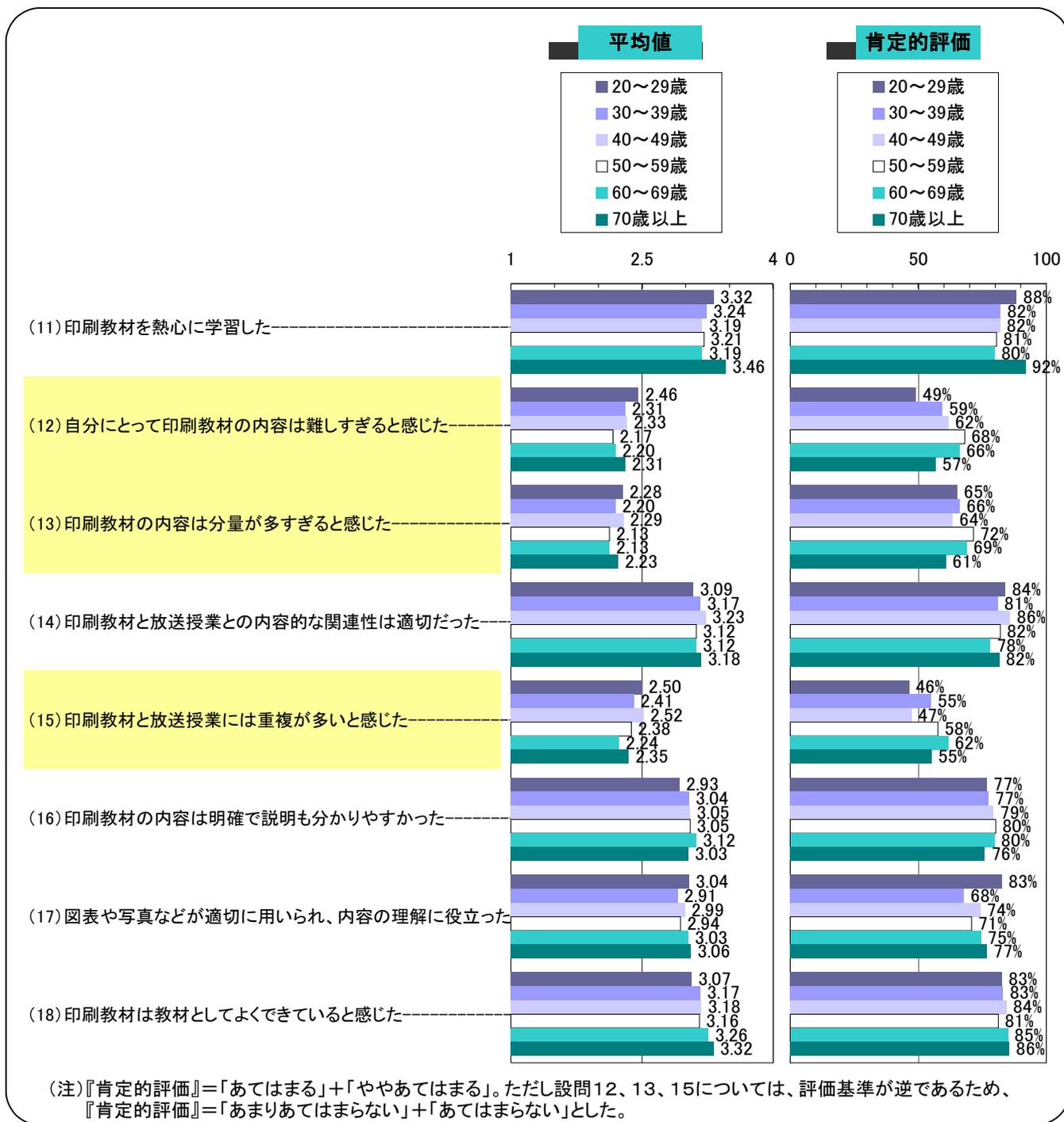


印刷教材の評価を年齢階層別に見ると（図2-29）、まず（11）「印刷教材を熱心に学習した」は、20代及び70代以上で多くなっており、総合評価の（18）「教材としてよくできていると感じた」は、20代が最も低く、60代・70代以上の高齢者層で評価値が高くなっている（ただし20代は回答数がやや少ないので、参考にとどめるべきであろう）。

印刷教材の（12）「内業は難しすぎると感じた」、（13）「分量が多すぎると感じた」については、50代・60代は少なく、熱心に学習した学生が多い20代及び70代以上は、逆に多くなっている。放送授業とほぼ同じような傾向が見られる。

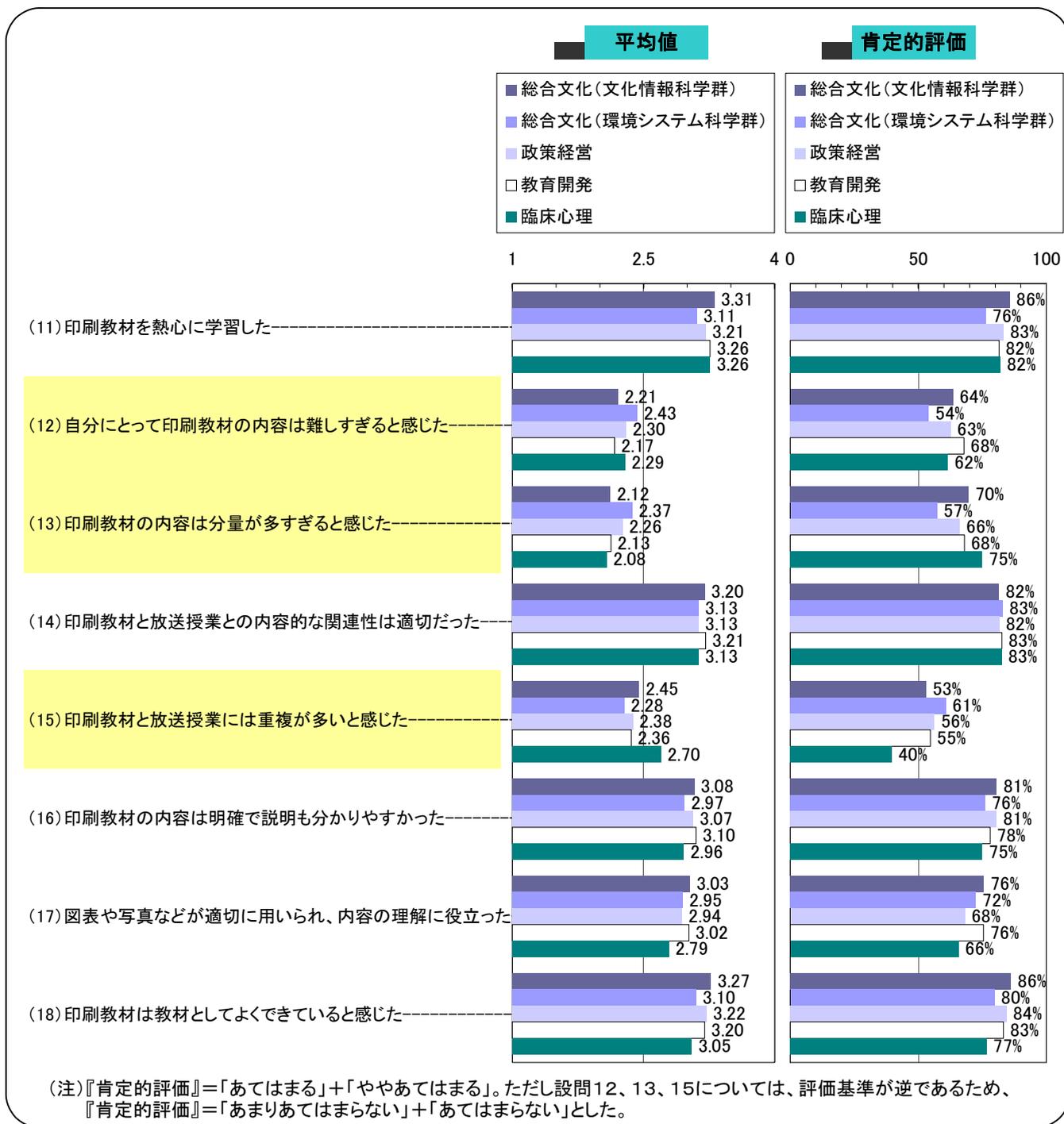
その他の項目に関しては、年齢階層ごとの特徴が把握しにくいですが、年齢階層別の受講科目の違いが出ている可能性もある。

図2-29 【大学院】年齢階層別の「印刷教材」評価



印刷教材を科目の所属プログラム（群）別に見ると（図2-30）、(11)「熱心に学習した」では、「総合文化（環境システム科学群）」が他のプログラムに比べ少ない。総合評価の(18)「教材としてよくできていると感じた」は、「総合文化（文化情報科学群）」「政策経営」「教育開発」等の評価値がやや高く、「総合文化（環境システム科学群）」及び「臨床心理」がやや低くなっている。「総合文化（環境システム科学群）」は、教材としての評価値が低いうえ、熱心度も他のプログラムに比べ低いと言える。また、(12)「内容は難しすぎると感じた」、(13)「分量が多すぎると感じた」という学生も、「総合文化（環境システム科学群）」では多くなっている。(15)「印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた」という学生は、「臨床心理」で他のプログラムに比べて多くなっている。

図2-30 【大学院】所属プログラム（群）別の「印刷教材」評価

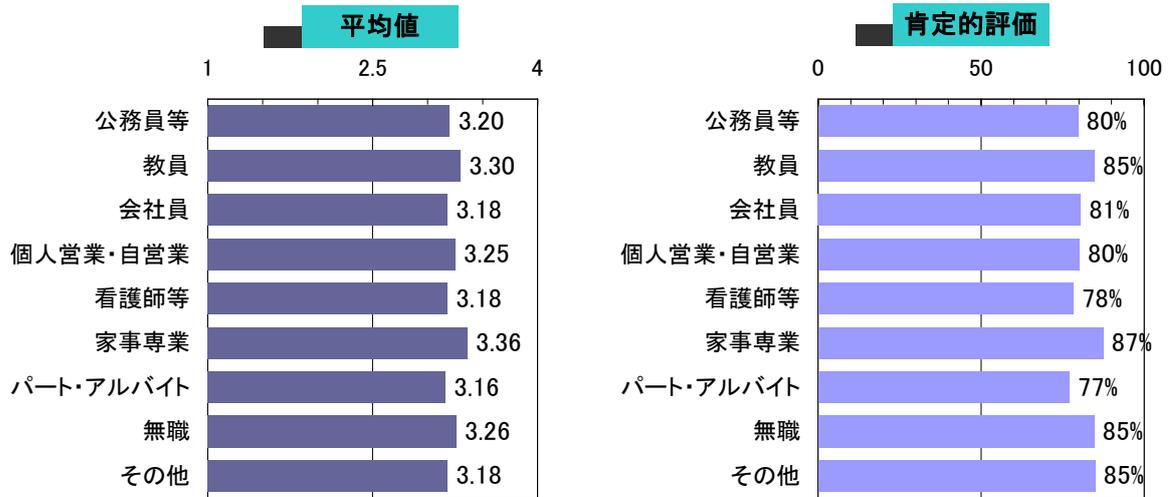


最後に、印刷教材の職業別学習熱心度及び難易度・分量について見てみる（次頁の図 2-31）。まず、(11)「熱心に学習した」を見ると、教員及び個人営業・自営業、家事専業、無職等で熱心度が高い。

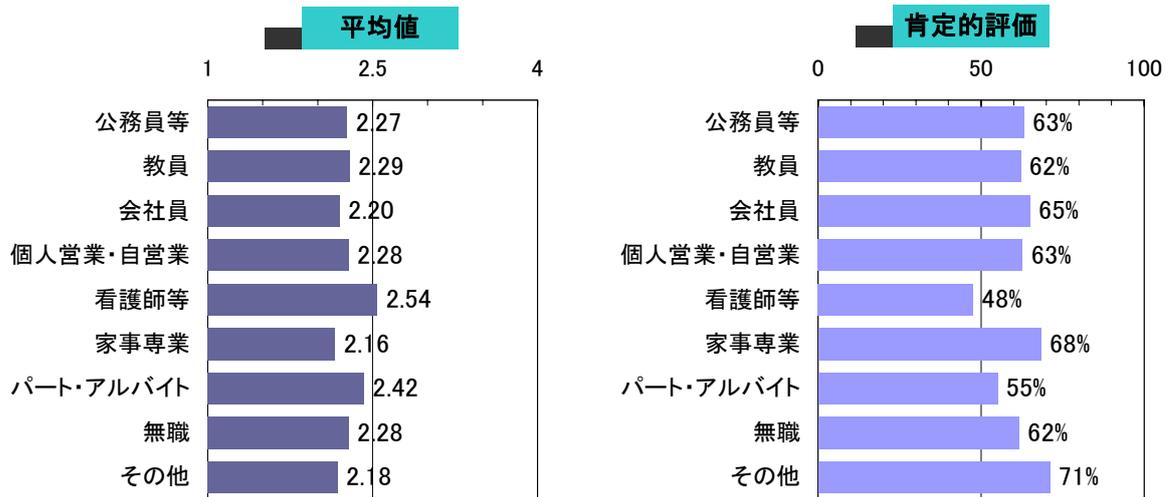
また、(12)「内容が難しすぎると感じた」、(13)「分量が多すぎると感じた」という学生は、いずれも看護師等とパート・アルバイトので多くなっている。

図 2 - 3 1 【大学院】職業別の「印刷教材」評価

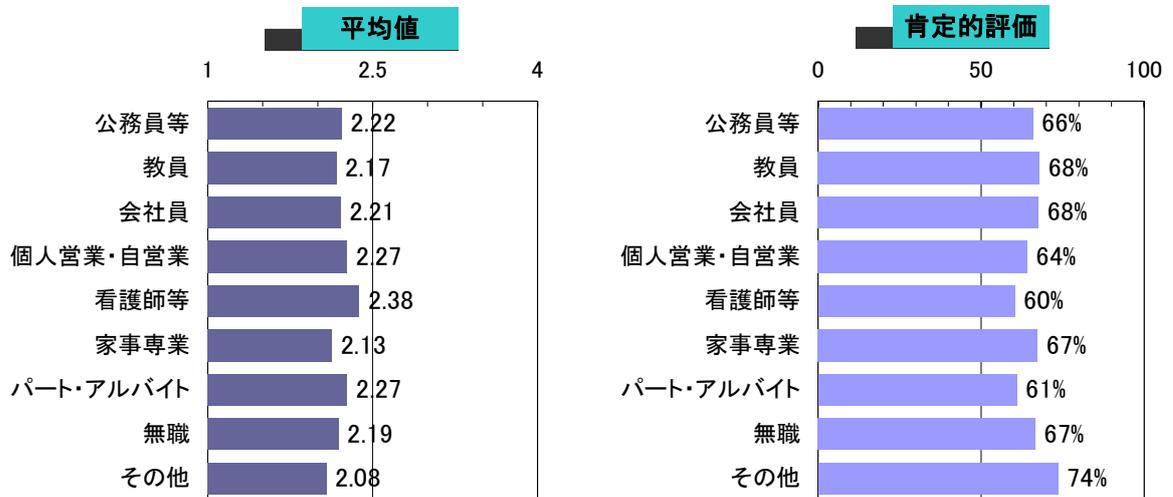
(11)印刷教材を熱心に学習した



(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた



(13)印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた



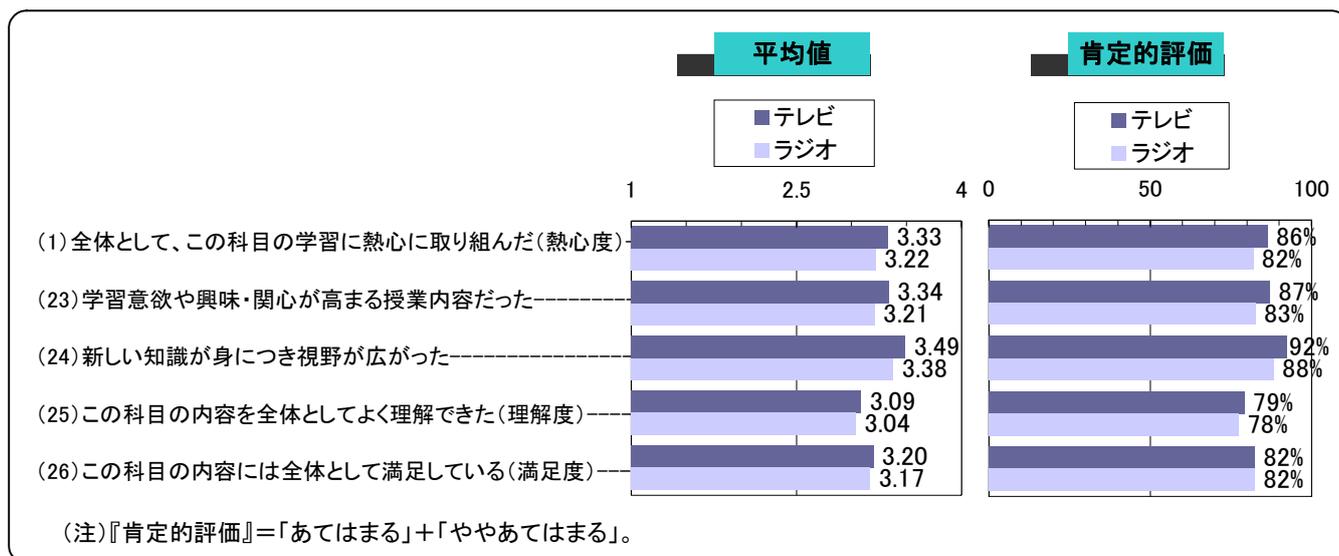
(注)『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。ただし設問12、13、については、評価基準が逆であるため、『肯定的評価』=「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」とした。

### (3) 科目全体の評価（取り組み姿勢・理解度・満足度等）

ここからは、科目全体の評価である学習への取り組み姿勢及び理解度・満足度を、科目特性や属性別に見ていく。

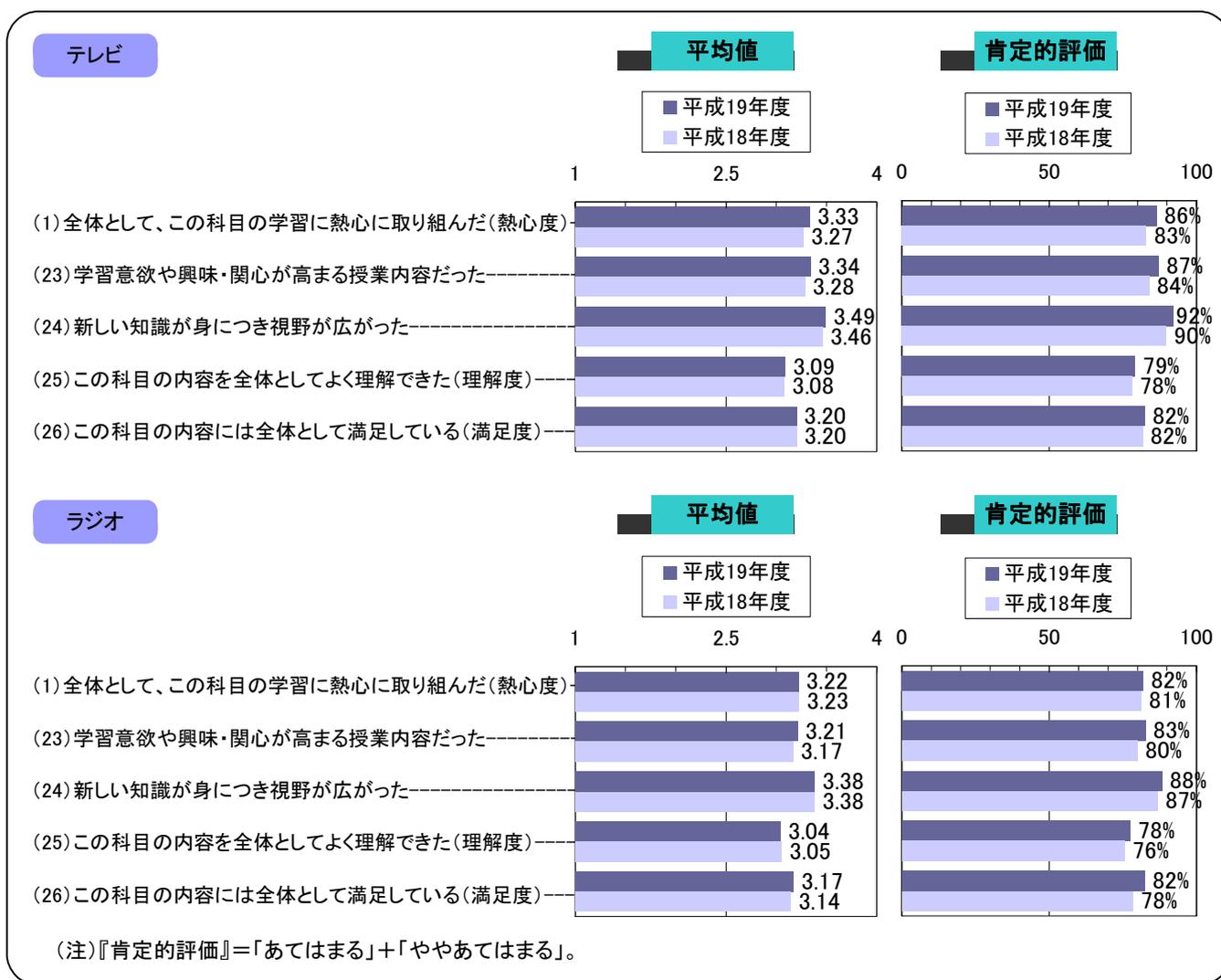
まずメディア別に見ると（図2-32）、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(26)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」等いずれの項目もテレビ科目の方が、評価値がやや高くなっている。(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(26)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」はあまり大きな差ではないが、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、やや差が見られる。したがって、ラジオ科目については、講義方法や教材の出来栄だけでなく、いかに魅力ある授業を提供できるかについても工夫が必要と言える。

図2-32 【大学院】メディア別の全体評価



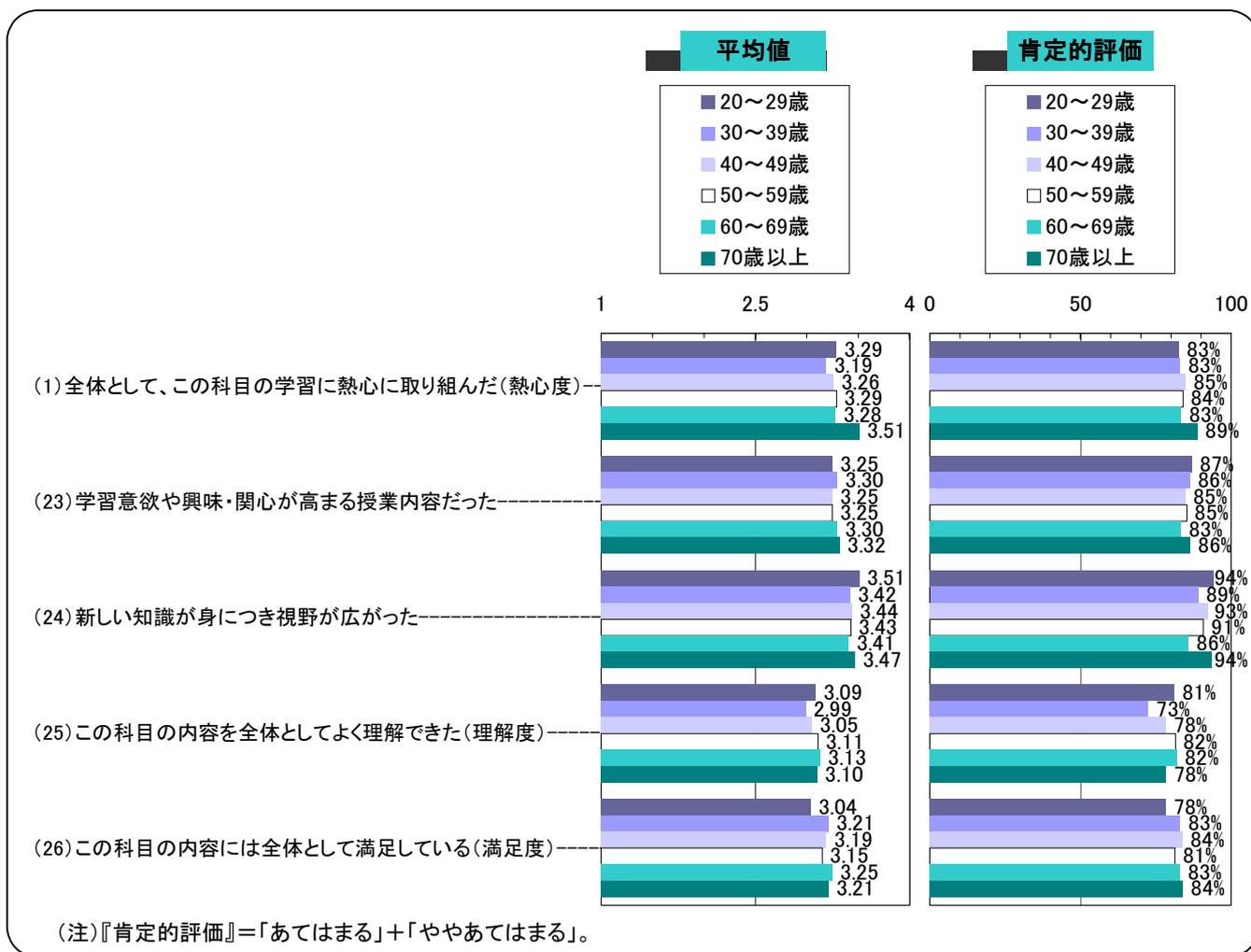
メディア別に昨年度との違いを見てみると(図2-3-3)、あまり大きな変化はないが、テレビ科目については、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」や(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」等で若干評価が高まっている。また、ラジオ科目では(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」がやや上昇している。

図2-3-3 【大学院】メディア別の全体評価(時系列)



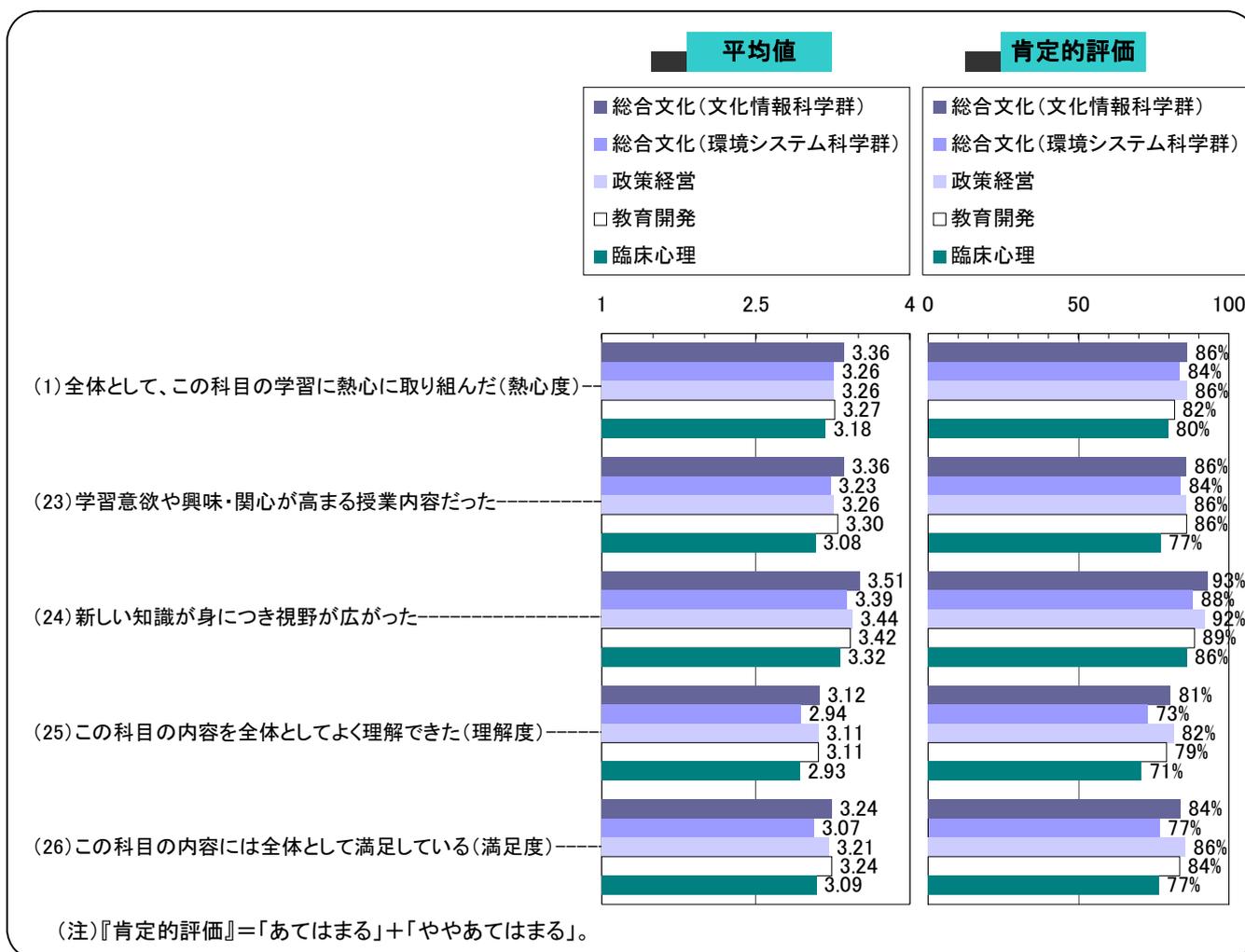
全体評価を大学院生の年齢階層別に見ていくと（図2-34）、中心層である30～60代は、大きな評価差は見られない。ただ（1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」において70代以上が非常に高いこと、また（26）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」において20代の評価値が低い点が目立つ。なお70代以上はいずれの全体評価も高い。一方、20代は、（26）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」以外の全体評価は他の年齢階層とあまり大きな差はないものの、（26）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」のみ低いという関係にある。

図2-34 【大学院】年齢階層別の全体評価



科目の所属プログラム（群）別に全体評価を見ると（図2-35）、(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」においては、「総合文化（文化情報科学群）」が高く、「臨床心理」が低くなっている。(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」及び(26)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」においては、「総合文化（文化情報科学群）」「政策経営」「教育開発」が高く、「総合文化（環境システム科学群）」と「臨床心理」が低くなっている。

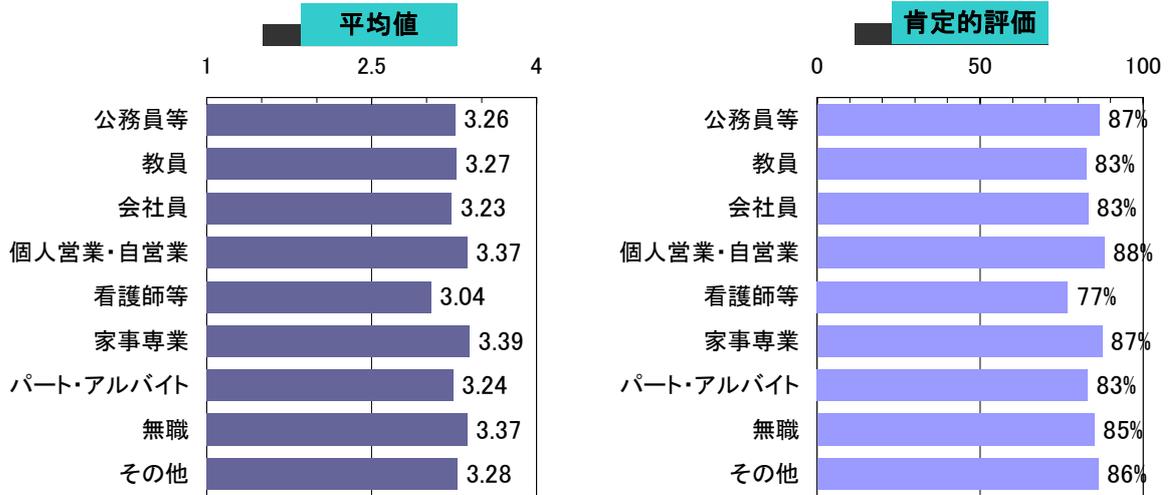
図2-35 【大学院】所属プログラム（群）別の全体評価



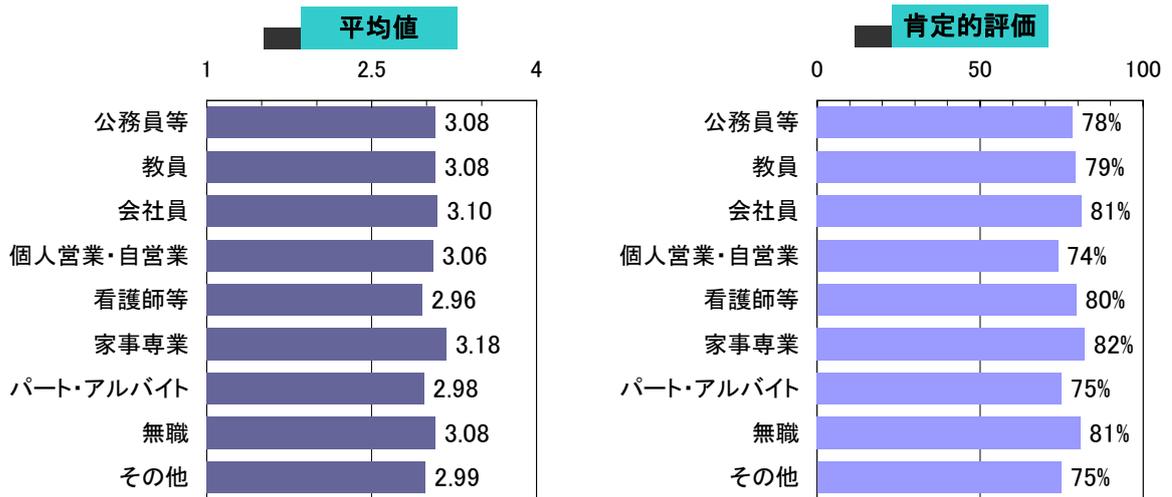
職業別に全体的な学習熱心度及び理解度・満足度について見てみる（次頁の図2-36）。(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では、個人営業・自営業、家事専業、無職等が高く、看護師等が低い。また(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」では家事専業が高く、(26)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」では家事専業及びパート・アルバイトが高くなっている。

図 2 - 3 6 【大学院】職業別の全体評価

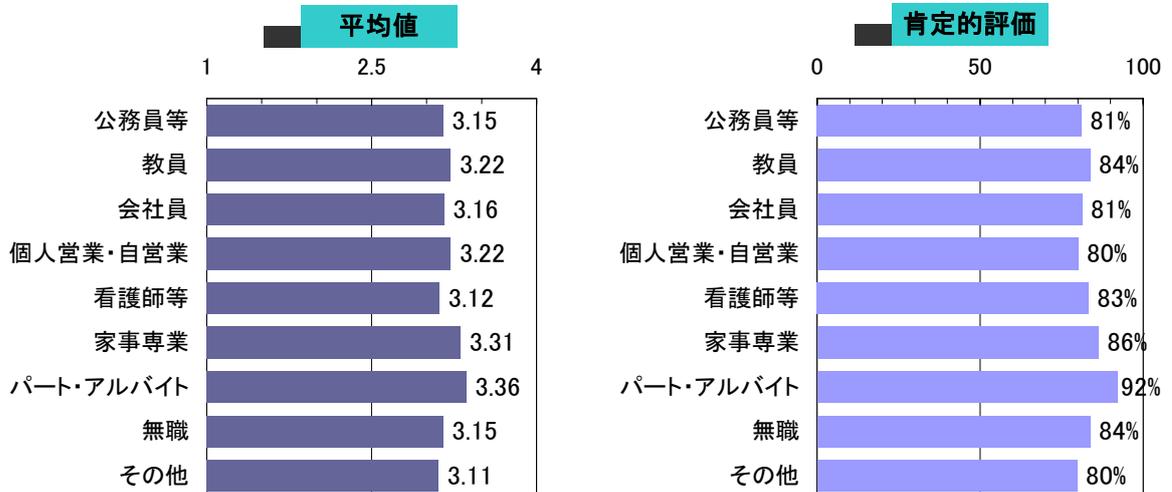
(1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(25)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(26)この科目の内容には全体として満足している(満足度)



(注)『肯定的評価』=「あてはまる」+「ややあてはまる」。

#### (4) 参考

ここでは、学部の場合と同様に、総合評価と各個別評価との関係を、相関係数を用いてみていく（相関係数の意味と見方については、41頁を参照されたい）。

表2-5は、放送授業の各評価項目と(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」及び(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」との相関係数である。これを見ると、(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」と(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」との相関係数は0.409(全体)と、学部と同様、緩やかな相関が見てとれる。

また(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」と(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」は、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(8)「講師の熱意が十分に伝わった」、(10)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」との相関が見られる。やはり放送授業の総合的な評価を高めるためには、ポイントをおさえた分かりやすい説明や講師の熱意、さらにテレビ科目では映像を生かした放送、ラジオ科目では映像がなくても理解できる内容であることが必要と言える。

表2-5 【大学院】放送授業と各項目との単相関係数

	【全体】		テレビ		ラジオ	
	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている	(3)十分に視聴した	(9)教材としてよくできている
(3)放送授業を十分に視聴した(視聴度)	1.000	0.337	1.000	0.360	1.000	0.301
(4)自分にとって放送授業の内容は難しすぎると感じた	-0.037	0.109	0.023	0.135	-0.090	0.087
(5)放送授業の内容は分量が多すぎると感じた	0.039	0.126	0.115	0.167	-0.017	0.098
(6)放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった	0.133	0.327	0.253	0.402	0.000	0.242
(7)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.373	0.671	0.364	0.674	0.364	0.660
(8)講師の熱意が十分に伝わった	0.409	0.670	0.442	0.674	0.364	0.659
(9)放送授業は教材としてよくできていると感じた(放送授業の総合評価)	0.337	1.000	0.360	1.000	0.301	1.000
(10)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.345	0.593	0.385	0.666	0.287	0.527

(注)設問4、5、6については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4→1、3→2、2→3、1→4と逆転した上で、相関係数を算出している。

次に、印刷教材の各評価項目と(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」及び(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」との相関を見てみると(次頁表2-6)、こちらも学部と同様に、(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」と(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」の相関係数が

0.316（全体）と弱いながらも相関が見られる。また（18）「印刷教材は教材としてよくできている（印刷教材の総合評価）」と相関の強い項目は、（16）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と（17）「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」、（14）「印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった」等であり、（18）「印刷教材は教材としてよくできている（印刷教材の総合評価）」を高めるためには、印刷教材の説明の分かりやすさ、図表・写真等の掲載、放送授業の内容との関連性等が重要と言えよう。

表 2 - 6 【大学院】印刷教材と各項目との単相関係数

	【全体】		テレビ		ラジオ	
	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている	(11)熱心に学習した	(18)教材としてよくできている
(11)印刷教材を熱心に学習した(熱心度)	1.000	0.324	1.000	0.318	1.000	0.331
(12)自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた	0.150	0.214	0.186	0.245	0.116	0.185
(13)印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた	0.153	0.224	0.219	0.264	0.087	0.187
(14)印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった	0.220	0.422	0.209	0.434	0.233	0.412
(15)印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた	-0.009	0.094	0.074	0.123	-0.081	0.067
(16)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.316	0.683	0.346	0.675	0.288	0.691
(17)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.266	0.649	0.318	0.690	0.231	0.627
(18)印刷教材は教材としてよくできていると感じた(印刷教材の総合評価)	0.324	1.000	0.318	1.000	0.331	1.000

(注)設問12、13、15については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4→1、3→2、2→3、1→4と逆転した上で、相関係数を算出している。

さらに全評価項目と(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」の相関を見ると、こちらも学部とほぼ同様な傾向が読み取れる(次頁表2-7)。

(1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」は、(3)「放送授業を十分に視聴した(視聴度)」、(11)「印刷教材を熱心に学習した(熱心度)」等の個別の熱心度や(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につく視野が広がった」、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との間に相関が見られる。

表 2-7 【大学院】全体評価と各項目との単相関係数

		【全体】			テレビ			ラジオ		
		(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度	(1) 熱心度	(25) 理解度	(26) 満足度
	(1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.519	0.439	1.000	0.531	0.453	1.000	0.508	0.427
	(2) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.367	0.395	0.451	0.372	0.419	0.451	0.368	0.374	0.453
放送授業	(3) 放送授業を十分に視聴した(視聴度)	0.555	0.336	0.269	0.569	0.341	0.302	0.538	0.331	0.242
	(4) 自分にとって放送授業の内容は難しすぎると感じた	0.150	0.354	0.249	0.197	0.404	0.296	0.110	0.306	0.203
	(5) 放送授業の内容は分量が多すぎると感じた	0.146	0.303	0.243	0.217	0.339	0.304	0.089	0.272	0.182
	(6) 放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった	0.137	0.192	0.298	0.220	0.207	0.336	0.050	0.174	0.272
	(7) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.300	0.402	0.490	0.332	0.458	0.538	0.263	0.348	0.449
	(8) 講師の熱意が十分に伝わった	0.303	0.348	0.477	0.334	0.389	0.530	0.268	0.310	0.437
	(9) 放送授業は教材としてよくできていると感じた(放送授業の総合評価)	0.286	0.393	0.537	0.300	0.412	0.591	0.266	0.376	0.494
	(10) [TV]テレビの特性が十分に生かされていると感じた [R]映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.264	0.341	0.415	0.300	0.364	0.482	0.224	0.325	0.376
	印刷授業	(11) 印刷教材を熱心に学習した(熱心度)	0.669	0.463	0.361	0.672	0.490	0.374	0.671	0.438
(12) 自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた		0.170	0.370	0.260	0.192	0.393	0.311	0.153	0.349	0.210
(13) 印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた		0.167	0.308	0.249	0.229	0.351	0.317	0.121	0.270	0.181
(14) 印刷教材と放送授業との内容的な関連性は適切だった		0.268	0.311	0.402	0.254	0.316	0.411	0.273	0.304	0.396
(15) 印刷教材と放送授業には重複が多いと感じた		0.057	0.047	0.105	0.111	0.044	0.127	-0.004	0.042	0.083
(16) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった		0.338	0.525	0.570	0.347	0.538	0.574	0.332	0.515	0.567
(17) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った		0.277	0.414	0.490	0.300	0.438	0.542	0.247	0.394	0.453
(18) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた(印刷教材の総合評価)		0.343	0.502	0.634	0.328	0.497	0.639	0.355	0.507	0.631
通信指導・試験	(19) 通信指導のコメントは納得のいくものだった	0.219	0.296	0.403	0.205	0.297	0.401	0.227	0.293	0.404
	(20) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.250	0.353	0.444	0.255	0.350	0.442	0.246	0.356	0.445
	(21) 単位認定試験にはほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ	0.134	0.026	0.021	0.115	0.014	0.016	0.132	0.024	0.018
	(22) 単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった	0.213	0.338	0.453	0.225	0.325	0.436	0.211	0.357	0.475
全体評価	(23) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.475	0.614	0.724	0.482	0.648	0.720	0.463	0.582	0.733
	(24) 新しい知識が身につく視野が広がった	0.458	0.590	0.665	0.456	0.589	0.660	0.454	0.591	0.674
	(25) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.519	1.000	0.687	0.531	1.000	0.686	0.508	1.000	0.689
	(26) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.439	0.687	1.000	0.453	0.686	1.000	0.427	0.689	1.000

(注)設問4、5、6、12、13、15、21については、他の項目と評価基準が逆であるため、回答を4→1、3→2、2→3、1→4と逆転した上で、相関係数を算出している。

(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる

授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につき視野が広がった」との間に強い相関が見られるほか、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」、(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」等との相関が見られる。

また、(26)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」との相関が強い項目は、(25)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(7)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(16)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(17)「図表や写真等が適切に用いられ、内容の理解に役立った」、(9)「放送授業は教材としてよくできている(放送授業の総合評価)」、(18)「印刷教材は教材としてよくできている(印刷教材の総合評価)」、(23)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(24)「新しい知識が身につき視野が広がった」等となっており、やはり科目の難易度や分量よりも、説明の分かりやすさや授業・教材の出来栄え、授業内容への興味・関心や知識の習得との関連が強いと言える。